

## 「形容詞の語法」

ト ㄥ ㄱ

ㄴ ㄷ

### --l, -cl, $\Lambda$ co, $\Lambda$ ce, $\text{C} \rightarrow$ , $\text{C} \rangle$ , Z-l, Zcl

--lは特別。抽具を取る。いつもと違うことや、ふつうでないことを表わす。Jelのように同じものが何度もある場合、いつもと違うという意味になる。VcoPCのように人生に一度しかない場合、他人の死と比べてふつうでないという意味になる

良悪の区別はない。-clは普通。特定という意味はない

$\Lambda$ coは珍しい。抽具を取る。頻度や数が少ないことを指す。良悪の区別はない

目新しいという意味はない。それはJ-l。珍しい企画は- $\Lambda$ o  $\Lambda$ coだが、それは他の会社がしていない企画という意味である。まだ他の会社が思いついていない企画という意味ではない

単に他の会社が知っていても知らなくてもいずれにせよ行っていない企画という意味である。他が思いついていない企画の場合は同じ珍しいでも新しいという意味なので $\Lambda$ co J-lである

稀でも良い。悪い意味で使えば異常な、奇異などとしても良い。良い意味なら貴重としても良い

$\Lambda$ ceは陳腐。珍しくないこと

尚、 $\Lambda$ coは $\text{C} \rightarrow$ , Z-lの基本的に上位概念である

$\text{C} \rightarrow$ は貴重。抽具。同じく頻度や数が少ないことを指すが、こちらは良い意味でしか使わない。 $\Lambda$ coの下位概念で、良い意味でしか使わない

$\text{C} \rangle$ は貴重でなくどうでもいいこと。当然これ自体は $\text{C} \rightarrow$ と違って悪い意味。貴重になるうるものと共起する。10万の時計は貴重だが、100円の時計は貴重でない。ゆえに100円の時計は $\text{C} \rangle$ である

Z-lは $\Lambda$ coの下位概念で、悪い意味でしか使わない。奇妙なと訳す。悪い意味で珍しいこと

である

Z-Iは完全にはΛcoの下位概念ではない。風変わりなと訳すこともあり、この場合は悪いとは限らない。得体の知れないとか謎のとか常識では考えられないという程度で、悪いとは言い切れない点がある

未来にタイムスリップできる時計があったとしたらその時計は奇妙である。Z-Iである。だがこのZ-Iは悪い意味ではない。そんな便利なものは奇妙であっても悪いものではない。ゆえにZ-Iは悪いとは限らない

Z-Iには正体の分からない不思議なという意味がある。人間は得体の知れないものを恐れる傾向がある。怖いものは悪いものに分類する傾向もある。ゆえに悪い意味での珍しいを表わすZ-Iを使って不思議を表わすことができる

一方、Zclは変哲のないこと。悪い意味の逆なのでふつう悪くないことを表わす。Z-Iになりうるものに使う。つまりタイムスリップのできない時間だけを表わす時計は奇妙でも何でもない普通の変哲のない時計である。このときZclという。Λceといっても良いが、それだとΛcoの反対であり、Λcoを反映している点で異なる

-o, -e, --o, -co, -Sl, cSl, し-l, しcl, M-l, Mcl, -ル, cル

-oは良い。抽具を取る。主観的でも客観的でも良い。何かを評価して良いと判断されたものに使う

-eは悪い

これ以降は-oの下位概念

--oは結果に関して良いということ。-coは結果が悪いこと。(ル-o) --oは良い点数のテストという意味である。結果を考えられないものは取れない。人はふつう取らない

-Slは評価が良いこと。cSlは悪評。し-o -Slは評価の高い絵

し-lは価値に関して良い。つまり価値があること。しclは価値がない

M-lは質に関して良い。良質である。Mclは質が悪い

質が良ければふつうは価値も高いのでし-l, M-lは混同されがちである。だが、1秒も狂わない時計は質は良いが、価値があるとは限らない。物によっては1000円程度の安物の時計でさえ1秒も狂うことはないからである。逆にブランド物で価値のある時計が壊れやすく、

すぐ狂ってしまうような場合、質は悪いといえる

-ㄨはおいしい。味が良いこと。cㄨはまずい。味が悪いこと。cㄨはかなり意味がきつい。おいしいですかと問われてよほどまずくてもcㄨとは言わない。陰ではcㄨといっても本人を目の前にcㄨというにはかなり親しい間柄でないとならない

-ㄨ>, cㄨ>, h-ㄨ-, h-ㄨc

-ㄨ>は忠誠の高い、忠義にあつい、忠実な。人の態度に使う。上に従い、犠牲になることもいとわないさま。人しか取らない。メトニミーで人以外も取れる。たとえば不忠な下請会社

cㄨ>は不忠な

h-ㄨ-はチームワークが取れているさま。チームなど、成員間にチームワークという人間関係が認められる集団を取る

h-ㄨcはチームワークが全然取れていないさま

-ㄨ<, cㄨ<, ㄨ<, eㄨ<

温度を表わす形容詞。-ㄨ<は熱い、cㄨ<は温かい、ㄨ<は温い、eㄨ<は冷たい。気温も表わすことができる。順に暑い、暖かい、涼しい、寒いである

-ㄨ<は性格が熱血でホットという意味にもなる。熱心で元気よく前向きで積極的、考えなしにつっこむことが多い性格である。強い良悪の区別はないが、アルバザードではふつう嫌われる

また、ㄨ--e -ㄨ<だと気温が暑いだが、eㄨ -ㄨ<だと体温が熱い、つまり熱があるという意味である。ㄨa eㄨ -ㄨ<はこれが熱を持っている。-ㄨ eㄨ -ㄨ<はㄨaが-ㄨ<に変わっただけである。だから私が熱を持っているという意味になり、風邪などによる熱があるという意味である

cㄨ<は性格が暖かいという意味も持つ。寛容で安らげる人である

温度としては温かいだが、風呂の湯などもcㄨ<である。-ㄨ<は熱湯で、日本人が飲む茶くら



-lε, clε, -l-θ, -lcθ

[Ve(ʧob)]

-lεは飢えた。食欲を主に表わすが、それ以外にも使える。つまり、ひどく何かを欲するさまである

clεは飽きた。食傷したものである。食欲以外にも使う

-l-θは空腹なさま。-lcθは満腹なさま。-l l--c -l-θなどと使う

物にも使える。<eAθμ- -l-θ>は直訳だと空腹な蜘蛛の巣だが、要するに獲物がかかっているという意味

-lxc-, -lue, -μc-

[Ve(ʧob)]

懐かしい。-lueが-lxc-の上位概念

-lueは以前体験したことを思い出させるような何かに遭遇したときの感情である。自分から思い出そうとするのではなく、認知したのから自然と思い出させられるような場合に使う

日本語と違って良い意味で用いるとは限らない。良悪はない。囚人時代も懐かしいといえる

日本語の懐かしいより広い。懐かしい数学とは言えないが、-k -lueはいえる。数学の中で昔学んだ分野がふいに思い出されるような場合に使う

-lxc-は主に思春期の甘美な思い出を思い出したときの感情。-lueの下位概念だが、こちらは良い意味でしか使わない

-μc-は子供のころに抱いた夢をその当時或いは大人になって感じたときの気持ち。将来の実現可能な夢ではなく、実現不可能な夢。王になる、大統領になるということはたとえ囚人で事実上不可能だとしても虚構ではなく現実の夢である。現実に対する夢は-μc-とはいえない。魔法が使えるようになったらとかそういった虚構に対する夢しか-μc-とはいえない

-μc-という気持ちは虚構の夢を想像したときにふと沸き起こる強いドキドキと恍惚感

を指す。そして思わずそれを何らかの形にして少しでも現実化しようと強く思う瞬間や、その想像に傾倒して酔いしれる瞬間を指す。何らかの形とは、その想像を絵にしよう、小説にしよう、音楽にしよう、ゲームにしようなどという意味である

- $\mu c$ -は特に思春期に感じる。- $l c$ -と意味が似ているが異なる。- $l c$ -は昔の現実の記憶について懐かしいと感じたときの気持ちである。- $\mu c$ -は虚構なので実体験ではないから懐かしいとは言いづらい。あくまで、そんな風だったら素敵だなと酔いしれたときの虚構に対する甘美な気持ちである

- $\mu c$ -は楽しく陽気というよりは、やや寂しく綺麗な感情である。虚構である点が寂しく、大抵内容は夢見がちな少女が想像しそうな綺麗な内容である。金や復讐などをテーマにしておらず、魔法を使って空を飛びたいといったようなものである

また、その虚構の世界の中で特に美しいと思われる名場面を想像したときの気持ち、或いはその場面を後から思い出したときの気持ちも- $\mu c$ -という。たとえば使徒リディアの事例でいうところである。魔法の世界で魔法剣を杖代わりにして湖畔に座り込み、湖を見る。すると青い月明かりが森の上から注いで水面を照らす。顔を仄かな光が照らし、白い剣が鈍く光を反射する。空気は穏やかで涼しく、木々のざわめきが聞こえている。そして明日はどこへ行こうかと考える。そのような場面を想像したり思い出したときに切なくも美しいと感じるときの感情を- $\mu c$ -という

->㉑, c>㉑, c-(c), c(c), -㉑-, -㉑c, h-㉑, hc㉑

[Ve(c)ob>]

人を取る

->㉑は誉れ。何らかの点で誇らしく凄いとされるさま。<- $\Lambda$  ->㉑は誇らしげにされた女。恥の反対で、名誉を感じることである

c>㉑は恥。何らかの点で誇らしくなく凄くないと卑下するさま。<- $\Lambda$  c>㉑は辱められた女。具体的には罵倒されたりした女である

c-(c)は強気ででしゃばりなさま。c(c)は内気で弱気なさま

-㉑-は名声が立つさま。-㉑cは悪評が立つさま。これらは人以外にも使える。Ve $\Lambda$  -㉑cは評判の悪い会社

h-㉑は誉められるさま。hc㉑は貶されるさま。恥や誉は辱めなどを受けた相手を感じる感

情であるが、h-ㄱ, hcㄱは誉める行為であって感情ではない。人以外も取れる。し-ㄱ h-ㄱは誉められた絵。ただ、実際に誉められているのは描いた人なのでメトニミーともいえる

## -llo, -lle

[Veㄱㄴollo>]

-lloは学術的なさま。-lleは学術的なものを馬鹿にするさま

どちらも悪とされる。-lleのほうがより悪とされる

e> ㄴol-cㄱ -llo leㄴ lecㄱ- (学術者は図書館として使うべし。バカと鉄は使えよう) という慣用句があるように、学術は必ずしも悪いものではない

主に人を取る。ㄱ-ㄴ -lloのように。lec -lloも可

## -lㄴ, clㄴ

[Veㄱㄴollo>]

-lㄴは直接。当事者間に何も仲介を挟まないさま。clㄴは間接。仲介を挟む

人ㄱが人ㄴに言葉を伝える際、間に誰も関与しなければ-lㄴ。間に誰か関与すればclㄴ。ゆえに電話や目の前での会話は-lㄴ。伝言はclㄴ。掲示板や電報もclㄴ

チャットは中間にあり、画面の向こうに人がいてそれをリアルタイムで伝えているので-lㄴということもある

直訴は-lㄴであるが、役人を通せばclㄴになる

間に物理的な仲介を含まない場合も-lㄴである。手袋をして皿を洗う場合は手袋が水と皿の物理的な仲介であるからclㄴである。コンドームを使ったセックスもclㄴである。俗にいう生は-lㄴである

## -lㄱ

[Veㄱㄴollo>]

-lㄱは他の、別の。相違を表わす。固有名詞以外なら取れる。ㄴccㄱ -lㄱは別のりんご。その時点で指示されたりんごとは違ったりんごを指す

都道府県別のといった「区別」の場合は使わない。「国別の」はㄱ-ㄱ ㄱ-ㄴ

除外も表わさない。これとは別にㄴ万円かかるという場合には使えない。「更に」を使う

ㄴeㄴは形容詞では使わない。e ㄴeㄴで他人の。ㄴolㄴも同様。動詞がないからである

oΛC, eΛC, C-シ, Ccシ, V-ㄩ, Vcㄩ

[Ve(C'holb>)]

全て、はやさに関する語である

oΛCは心理的なはやさである。急いだという意味。人のように心理を持つものを取る。く-Λ oΛCで急ぐ女。用事や仕事のように人でないものも取れる。I-e oΛCで急ぎの仕事。かといって実際に仕事が急ぐのではなく、人がその仕事に対して急ぐさまを表わしている

eΛCは逆にゆっくり

C-シは物理的な速度に関するはやさである。速い球などに使う。Ccシは速度が遅いこと。心理的なはやさでも時間的なはやさでもない

以下の語は全て時間的なはやさである

V-ㄩは時間的な進行速度のはやさ。人が100メルフイを100秒で歩くときを基準に考えると、同じ距離をㄩ0秒で歩くのははやいといえる。このとき、時間が半分になっているので時間的にもはやいが、それよりも手足の動かす物理的な速度が速くなっていることに人は焦点を当てる。だからこの歩きはC-シである

では、コンピュータが10秒かけて処理するのを、マシンを変えてㄩ秒にしたらどうか。先ほどと同じで時間的にはよくなっているが、物理的にはどうか。コンピュータはカリカリいうだけで物理的な動作は目に見えない。ゆえにC-シとはいえない。そしてこのような時間的な進行速度のはやさをV-ㄩという

つまりV-ㄩは素早いとかてきぱきてっとりばやいとかがすぐ済むというようなはやさである。ㄩ-V- V-ㄩだと朝食を食べる時間的なはやさが早いことをいう

逆にVcㄩは時間的な遅さをいう。いってみればのろいである。のろのろとのろく、時間がかかるさまがVcㄩである

一方、くoΛは時間が長いさまである。所要時間でも非所要時間でも良いが、始まりがあって終わりがある事柄の時間の長さが甚大であることを指す。たとえば人生や授業や食事などは長いといえる

ㄩ-V- Vcㄩだとちんたら食べる朝食で、ㄩ-V- くoΛだと長い朝食時間を指す。前者は食べるのが遅いというように、行為の存在を仄めかす。後者は単に時間が長いということだけで、



のろのろ食べている絵は想像しない

<eΛは短いさま

<oΛとVcλ、<eΛとV-λは異なる。Δ0年の長い人生を忙しく過ごした場合、<oΛではあるがVcλではない。V-λである。逆に短い時間でもつまらない嫌な時間なら長く感じる。この場合、<eΛではあるがVcλである

-λ, cλ, oλ, eλ, ΛoV, ΛeV

[Ve(ʧob>)]

-λは行為より前で、しかも行為から遠いことを示す。相の場合、開始と終了のみに使う。アオリストにも使える。「まだまだ～ない」と訳す

cλは-λと同じで、行為から近いことを示す。まもなく～する、すぐ、早速、即、即座に、とっとと、手早く、速やかに、速やかな、などの意味

oλ, eλは行為の後で、順に行為から近い、遠いの違いを持つ。意味は「～したばかりだ」と「～してから時間が経った」

|- leV-o -λ -Λ 彼はまだまだ着かない

|- leV-o cλ -Λ 彼はもうすぐ着く

|- ΛoΛ-c) oλ λ-V- 彼は朝食を食べたばかりだ

|- ΛoΛ-c) eλ λ-V- 彼は朝食を食べてから随分経つ

ΛoVはある期間の中の前半部、早いほうを指す。1日という期間なら朝がΛoVになる。1年なら春。冬休みなら序盤のほう。2日間の旅行なら1日目

期間の枠を超えないのが特徴。3時から5時までの間が期間で、5時が締め切りだとすると、2時の場合はΛoVを超えてV-Zになる。逆に5時を越えれば遅刻なのでVcZになる

->C, CcΛ, ʧo, ʧe, VeΛ, o-, oc

[Ve(ʧob>)]

全て程度を表わす。名詞にかかれれば何らかの点でその名詞の程度を表わす。実際の解釈は文脈による

>cc) CcΛは「とてもしんご」だが、これだけでは意味が分からない。だが、状況次第ではこれが「周辺のりんごではなく非常にりんごらしいりんごだ」などの解釈を持つ

動詞にかかって副詞になってもその動詞の程度を表わす。やはり解釈は文脈による。文脈によらなくとも分かるものもある。 $\text{e-}\omega\text{-e}$   $\text{c}\Lambda$ ならふつう強く殴るといった意味になる

$\rightarrow\text{c}$ は極端な。程度が極端であることを表わす。良悪はない。 $\text{c}\Lambda$ よりも程度が高い

$\text{c}\Lambda$ ,  $\text{c}\omega$ ,  $\text{c}\text{e}$ ,  $\text{Ve}\Lambda$ は程度を表わすの段階の形副詞である。 $\text{c}\Lambda$ が程度が高くて「とても」。 $\text{c}\omega$ は少し程度が高くて「かなり」。 $\text{c}\text{e}$ はやや否定的で程度が低く、「ちょっと、少し」。 $\text{Ve}\Lambda$ は程度が甚だしく低いことで、「かろうじて、ほとんど、まったく～ない」

$\omega$ -は最大とか最高の。 $\omega\text{c}$ は最低とか最悪

ある名詞や動詞の中に程度という尺度を考えたとき、その尺度を線分で表わすとする。

$\rightarrow\text{c}$ はその線分の端のみに焦点を当てる。一方、 $\text{c}\Lambda\sim\text{Ve}\Lambda$ は線分内部を四つに区切り、区切った区分一つずつを各々が請け負う。 $\rightarrow\text{c}$ は端を表わすが、 $\text{c}\Lambda$ らは線分の内部を表わす

$\omega$ -,  $\omega\text{c}$ は $\rightarrow\text{c}$ と同じく端を請け負うが、両端の区別がある。更に $\rightarrow\text{c}$ にはない良悪の区別も持つ。 $\rightarrow\text{c}$ より具体的である

## $-\Lambda$ -, $-\Lambda\text{c}$ , $\text{?}-\text{Jo}$ , $\text{?}-\text{Je}$

[ $\text{Ve}(\text{c}\omega\text{c}\omega)$ ]

$-\Lambda$ -はセンスがある。人を取る。日本語では主に服に対して使うが、それ以外にも料理、スポーツ、芸術、勉強などに使える。その点は $-\Lambda$ -も同じ。何かを行う際に、そのコツを知っていて合理的に上手に行えるさま。才能がなく努力でセンスを勝ち取っても良いが、しばしば才能がある人が $-\Lambda$ -といわれる(1)

(1)  $\langle-\Lambda$   $-\Lambda$ -  $\text{c}\omega\text{c}\text{e}\Lambda$   $-\text{K}$  (数学にセンスのある女)

$-\Lambda\text{c}$ はセンスがない、悪い。ださい

$\text{?}-\text{Jo}$ は洗練された。何度も研鑽を重ねて上手になったという意味。このことは語源が古 $\text{?}-\text{?}-\text{Jo}$ で、原義は「たくさんした」であることから分かる。 $-\Lambda$ -と同じようにコツを知っていて上手にできることを表わすが、 $\text{?}-\text{Jo}$ のほうが努力を前提にしている。 $\text{?}-\text{Jo}$ のほうが努力の影があるということである

言ってみれば-Λ-のほうが天才に近い。㇀-Joは秀才である。日本語で「貴婦人の洗練された振る舞い」というから㇀-Joを使いたいが、これは状況によっては失礼。努力の影があるからである。-Λ-のほうが才能を感じさせる。日本語に惑わされないように

㇀-Jeは逆に洗練されていないさま

-Λλ, cΛλ, V-l, Vcl, ㇀e-, ㇀ec

[Ve(ʧolo>)]

-Λλは元気。人を取る。活力があふれているさま。肉体的な元気と精神的な元気がある。順にe( -ΛλとΛ--e -Λλで区別

cΛλは疲れている。活力がないさま

V-lは健康。人を取る。活力というよりは 病気がないことを表わす。e( V-lとΛ--e V-lで肉体的な健康と精神面の健康を区別

Vclは病気。活力の点ではなく、病気であることに焦点

㇀e-は正常。あるべき状態を表わす。抽具を取る。解釈は文脈次第である。人の場合肉体的精神的にあるべき状態であることだが、その他色々な解釈がある。ストライキしていた人が元の社会的地位や状態に戻ることもあるし、裏切っていた人や迷っていた人が常時に戻ることも表わす。元のあるべき状態と考えられるなら何でも良い

㇀ecは異常。あるべきでない状態

-Λ<, cΛ<, Jo-(, Jo(c(

[Ve(ʧolo>)]

-Λ<は待遇や扱いに差が存在することで、不公平、不平等。<-Λ -Λ<で不公平な女。文法上、このままでは不公平に人を扱うとも扱われるとも取れる。l-e -Λ<は不公平な仕事。何か差を設けられることなら何でも取れる

-Λ<は悪い意味で使われる。不公平、不平等と同じである

cΛ<は公平で差がないこと。こちらは良い意味で使われる

Jo-(は差別されるさま。待遇に差をつけられて区別されること。-Λ<と違って良悪がない。

良い意味にひいきされる場合も表わせる

ㇿㇿㇿは区別されるさま。良悪に差はない。待遇も差がない

cㇿㇿは公平であることだからいわばイコールである。だがㇿㇿㇿは区別されるのでイコールではない。ㇿㇿㇿはㇿㇿㇿや-ㇿㇿと同じくイコールではない

つまりㇿㇿㇿは待遇に差がなく区別されること

まとめると、-ㇿㇿは良い待遇で区別されること。ㇿㇿㇿは良悪なく差を持った待遇で区別されること。ㇿㇿㇿは良悪なく差がない待遇で区別されること。そしてcㇿㇿは区別されないこと

-ㇿㇿ, cㇿㇿ, l-ㇿㇿ, lcㇿㇿ, ㇿ-->, V-ㇿ>-

[Veㇿㇿㇿ>]

-ㇿㇿは可愛い。人を取るが、物も取れる。<c-ㇿ -ㇿㇿ, laㇿ -ㇿㇿなど。-ㇿㇿは幼げで守ってあげたくなるようなさま

laㇿ -ㇿㇿのように物にかかる場合、幼げで守ってあげたくなるような人にふさわしいという意味である。つまりlaㇿ -ㇿㇿは可愛い子が着てそうなスカートである。>elㇿ -ㇿㇿも可愛い子が持ってそうな時計である

cㇿㇿは小憎らしいさま。幼げではあるが、生意気で気に食わない態度。また、そういう人にふさわしい物

l-ㇿㇿは美しい、綺麗。具象に対しては容姿やプロポーションの優れていることを述べる。男にも使える。姿形だけでなく、動作の仕方などについても言える。姿形が均整のとれたものであるという綺麗さも表現するので、非常に無駄のない贅肉の取れた体は美しい。同時に、無駄のない数式や論理式やプログラムも美しいという

lcㇿㇿは醜い

ㇿ-->とV-ㇿ>-はカッコいい。どちらも人の内面的外見的な要素について誉めることである。外見のカッコよさと内面のカッコよさのどちらも表わせる。人を取る。その人にふさわしい物も取れる

V-ㇿ>-は恋愛対象に使う。ㇿ-->はそれ以外に使う。間違って気のない相手にV-ㇿ>-といえば気があるとってしまったことになるので注意

-ə, ə

[Ve(ʧob>)]

-əはおまけ。付け足しという意味。既に完成度が100%に達しているものにプラスアルファを加える場合に使う。ʧa -əは付け足しの言葉。ʧcl -əは付け足しの金。既に金が足りるところに少し加えること

əは補い。補足。完成度が100%に満たないものに使う。100%に近付けるために補ってやることである。ʧa əは補いの言葉。言葉足らずなところに補足として加える。ʧcl əは補足金。足りないところに少しカバーしてやること

-əeʌ, əeʌ, əeʌ, lcZʌ, l-Zʌ, <-ʌʌ, <cʌʌ

[Ve(ʧob>)]

-əeʌは呆れた。悪い事態が起こって対処すべき行動や言葉を失い、その事態に対処したり関わったりする気力が減ることを表わす。また、その悪い事態を引き起こした原因に対して評価を下げることも意味する。更に、その原因がその事態を起こしたことを俄かには信じがたいと思っているニュアンスも持つ。つまり「呆れる」である

同じ悪い事態でも自然発生的なものにはふつう-əeʌを使わない。ふつう-əeʌは人為的な原因に対して抱く気持ちである。山火事には呆れられない。但し、もしこの山火事が放火魔の起こした人為的なものであったり、工場のミスで起こした爆発が原因だったりすれば山火事も呆れられる

əeʌは自分が何をすれば良いのかは分かっているけれども、それでも問題を解決できなくて困り悩むさま。人や問題を取る。<-ʌ əeʌで困っている女、ʧeʌ əeʌで困らせるような問題

əeʌは起きたことに対して悔やむことで、「後悔」の意味である。<-ʌ əeʌで後悔した女。ʌol- əeʌで後悔させるような事故

lcZʌは問題に対してどうすれば良いのか分からない状態や気持ちを指す。対処法、解決法など、自分のすべきことが分からずに迷う場合に使う。<-ʌ lcZʌで迷った女。道に迷うとい

う意味でなくどうすれば良いか分からないという意味

l-ZAは逆に自分のすべきことが分かっている悟っている状態や気持ちを指す。<-A l-ZAで悟った女

9eJがひたすら困ったと思うことで、lcZAがどうすれば良いのかと悩むことである一方、9eJはああしなければ良かったと否定的に考えることである。9eJやlcZAはその問題からの脱却を目標にしている一方で、9eJは単に否定的に悔やみ続けるだけである。9eJのほうが9eJ, lcZAより後ろ向きで否定的で消極的である

<cAは面白みが感じられなくなって場や人が沈静化することで、「白ける」である。白けるのが人でも座でも良い

<-Aは興がわくこと

-M, cM

[Ve^49b>]

-Mは完全な。完成度や進捗度が100%かそれに近いさま

cMは不完全な。完成度が低いというよりむしろ0%かそれに近いさま

完成度や進捗度が考えうるものなら何でも取れる。人も人間の理想像との比較で完成度を考えられる。理想的な人間へどれだけ近いかで完全な人間といえるかどうかが決まる

<-A -Mといえば完全な女。スポーツも勉強もできて美人で性格も良いような女。ただこれは<-A - cMの解釈。<-A cMの場合は完璧主義の女

副詞として使ったときは、その動詞の完遂度を示す。<-c-- -Mは完全に燃やした。燃やし尽くした。完遂度は100%である

逆に<-c-- cMは0%の完遂度で燃やしたことを示す。cMは完遂度が0%であることを示す。火にかければ全く燃えないことは少ない。青い草は燃やしてもなかなか燃えない。だからといって青い草が燃えなかったというときは<-c-- cMではない。青い草でも燃やせば少しは燃える

だからこの場合、<-c-- -M 9Jか<-c-- cM 9Jという。前者より後者のほうが燃えていない。9Jを付けた結果、完全でないのほうが不完全でないより程度が低いという逆転現象が

起こるからである

殺そうとしたが殺せなかったを訳すとき、 $Je\text{C}^{\text{--}}\text{e}$ と $Je\text{C}^{\text{--}}\text{-}\mu\text{ }o\text{J}$ では意味が違う。前者は殺そうと考えたが実行には至らなかった。準備までで止まっている。仮に捕まっても殺人予備罪でしかない。そして後者は殺そうと実行に移しているが、殺しきれなかったということである。これは殺人未遂である

$Je\text{C}^{\text{--}}\text{e}$ のように $o\Lambda$ に変化を与える動詞は完遂度を考えやすい。 $e\text{-}o\text{J}\text{-}e$ のように $o\Lambda$ に変化がない一回切りの瞬間動詞は完遂度が考えにくい。仮に拳が相手に当たるところを完遂とすると、 $e\text{-}o\text{J}\text{-}e\text{-}\mu\text{ }o\text{J}$ と $e\text{-}o\text{J}\text{-}e\text{e}$ は事実上同じことを表わすことになる

「～しようとしたができなかった」という日本語は長い。それに比べてアルカは副詞の $c\mu$ でそれを表現できる。簡単である。しかも $c\mu$ は0%を示し、それより少し程度の高いことに $-\mu\text{ }o\text{J}$ と $c\mu\text{ }o\text{J}$ を使うことができる

つまりアルカでは「～しようとしたができなかった」を簡単かつ三段階という細かさで表現できるということである。将前相も入れれば四つである。それゆえアルカでは「～しようとしたができなかった」の訳し分けは重要である。表現が広がる反面、訳し分けが難しい

「～しきった」を訳すときは $e\text{e}$ なのか $e\text{-}\mu$ なのか区別せねばならない。説得しきったは説得し終わったのか説得して成功したのか分からない。 $Jo\text{J}\text{-}e\text{e}$ なのか $Jo\text{J}\text{-}e\text{-}\mu$ なのか区別せねばならない。更に、 $Jo\text{J}\text{-}e\text{e}\text{-}\mu$ の可能性もある。この日本語からでは判断できない。前後の文脈と合わせて考えねばならない

$-\mu\text{e}$ ,  $c\mu\text{e}$

[ $Ve\text{C}^{\text{Yolo}}\text{>}$ ]

$-\mu\text{e}$ は繋がった状態。単に接触しているだけでなく、何か接着剤を媒介して連結している場合に使う。接着剤に準じるものでも良い。鉤と鉤をはめ込んで組み合わせて連結させた場合でも良い。はめ込むということが二つを繋ぐ媒介と考えられる

接触と違って連結しているのでふつうは容易に離せない。力を加えたり時間が経過しないと離れない







このように、-J, cJは主観的な甚大さを表わす。極めて自己中で個人的である。それゆえに話者の気持ちを良く表わしている

命題としてはI- cJ 7eC-- 7o-とI- 7eC-- 7o-は大した差がない。前者は他の出席者の排他を表わすという点を除けば全く同じ命題である。だが、前者のほうが話者の気持ちが表われている。他にも来てほしかったのにといい気持ちが表われている。後者は単に彼が来たということだけで、話者の気持ちは伝わってこない

cJは「さえ」などと訳すが、「～なんか」と訳す場合もある。-A I-u-a >cc7はりんごがほしくないだが、-A I-u-a >cc7 cJといえりんごなんかほしくないという訳す。りんごに対する話者のちっぽけなで甚小なものという見方をcJで表わしている

逆に-A I-u-c >cc7 -Jというとりんごまでもほしがらるである。-A I-u-c >cc7 cJはりんごしか望まない。-A I-u-a >cc7 -Jはりんごなんてとんでもないもの望みませんという遠慮した気持ちが含まれる。りんごに対する甚大さを-Jが表わしている

## -J, cJ

[Ve(4ob>]

-Jは代わりの元を表わす。逆にcJは代わりを表わす。今本当はワインが飲みたいのだがビールしかないのでビールを飲む場合、ワインが代わりの元でビールが代わりである

7eJ cJは代わりのビール。ワインの代わりとしてのビールとか、まずいビールやぬるいビールの代わりとしてのビールなどの意味

## -I, -cl

[Ve(4ob>]

-Iは近づきやすい。-clは近づきたい、畏怖を感じる。距離的な近づきやすさも表わせるが、基本的に心理的な近づきやすさである

人を取るが、物も取れる。0-I -clで近づきたい山。これは心理的だけでなく本当に距離的にも近づきたいことも表わす

## -I, cI

[Ve^4olo>]

-Clは礼儀正しい。cClは無礼、失礼。言葉遣いも振舞いも態度も表わせる。ゆえに rude, impolite の違いは-Clにはない

人を取るが、振る舞いも取れる。物は取れない。無理に取って<sup>pec</sup> cClといった場合、ワインの入れ方や飲み方などが失礼という意味である。結局ワインを通して人が失礼とっている

cClは日本語の無礼に比べて遥かに使用率が高い。どの場面で使うかは日本語とかなり開きがある。アルバザードではどのようなときに無礼とを感じるか

基本的に自分の存在を軽視されたと感じるときは無礼とを感じる。挨拶したのに返さないのは勿論、自分と相手の立場を踏まえられない返し方にも無礼とを感じる。たとえば目上と目下が同じ挨拶を返してはいけない。目下ほうが丁寧でなくてはならない

このことは挨拶だけでなく対応の態度全般についてもいえる。返事、喋り方などが立場をわきまえたものでないとき無礼とを感じる。これは日本でも同じである

また、こちらが質問をしたのに答えないと無礼とを感じる。これは日本も同じ。但し、その内容が婉曲なものでも無礼だと感じる。これは日本と正反対である。日本では無礼講で遠慮なしにいうと無礼である。そのためにわざと婉曲にいう。ところがこれはアルバザードでは大変失礼である。相手の質問に誠意をもって返す意思がないと見られるためである

質問の答えが的を射なくても無礼である。知能を働かせて答える気がないと判断されるためである。勿論、相手が知能の乏しい子供の場合、無礼とは思わない。軽視されてるわけではないからである

質問に率直に答えないのも無礼。会話の先を読んで次の段階の答えを返すのはかなり無礼。必ずその一歩先をいった答えを返す前に“4-”一つでも相手の質問に対して答えていれば無礼でなくなる

他にも、自分が公園のベンチに座っているとき、誰かが無言で隣に座ると無礼だと感じる。ベンチは自分の所有物ではなく公共のものであるが、その公共物を現在使用しているのは自分である。そこに誰かが来ればそのスペースを公共のものである以上、素直に明け渡す。使用权を半分渡しているわけである。したがって相手はそれに対する礼を表わさなければならない

このように、公共のものであっても誰かのスペースを分けてもらう際は礼を示して一声かけねば無礼である

また、感謝に値することをしてやったのに相手が無言の場合も無礼と感じる

自分の話が途中で遮られても無礼と感じる

道でぶつかっても無言だとか、本屋で棚の目の前を通り過ぎるときに無言だといった場合も無礼だと感じる

また、自分が悪いことをして謝罪したときに相手が無言でも無礼と感じる。相手が正当に抗議してくるのは無礼でない

室内に入ったとき、その日一回目に会った知り合いに目配せでもいいから最低限の挨拶をしないで、あたかも彼がいないかのように用事を済ませるのも無礼。逆に相手が集中しているのにわざわざ声をかけるのも無礼

むやみに人を疑ったり貶したりするのも無礼

冗談関係にない人に冗談をいうのは極めて無礼。ユーモアならかろうじて許される

電車などで席を譲れといわんばかりの態度をしたり、またそのように請求するのも無礼。年齢に関わらず先にいたほうが座る。座っている人が自発的に譲れば良いとして、自分からせがむのは無礼。但し、具合が悪いときに正々堂々頼むのは無礼でない

プレゼントされたものはその場で開けるべき。内容に対する満足度に偽りをいうのは失礼。出された食事を一般にまずいというのは無礼。一般的にまずいではなく自分の味覚に合わないというのは無礼でない

道を譲ってもらって無言なのも無礼

評価を求められて正直に答えないのも無礼

むやみに人を笑うのは極めて無礼。日本の比ではないほど無礼。殺人の動機として情状酌量されるくらい無礼である

大声で馬鹿騒ぎするのも無礼。周りの迷惑を考えないのも無礼。特に祈りを捧げている人の周りで騒ぐのは極めて無礼

また、このような例もある。ある女が男に質問をした。男の回答は道徳的に見て極めて悪徳であった。たとえば事故で死んだ子供を見てどう思う？という質問に「これまでの養育費を無駄にしないようにすぐに捌いて臓器を売り、次を作るべき」と答えた場合などである

このとき、日本人ならこれを聞いた女が怒っても女を咎めない。むしろ男を咎める。ところがアルバザードでは絶対に男を咎めることはない。女が怒れば必ず女を咎める。この場合がcflに当たる

勿論、男の考えは非道徳的である。にもかかわらずこれが善良な民意である。なぜか。アルバザードでは質問した者はその回答によって不快になってもその不快さに対して責任を負うというのが常識である。つまり、何を聞くことになろうと聞き出した人の責任ということである

アルバザードは個性を尊重する。当然、個人個人の思想も尊重する。自分の考えと他人の考えが異なることはもはや前提である。相手の考えが自分や常識に添わないことは十分想定できる。したがって相手に自分の考えを述べさせる場合、その回答が全く予想不可能なものである可能性を常に考えなければならない。自分から聞き出したのだからそれが自分にとって不快な回答でもその感情に責任を持たねばならない。聞いておいて怒り出すのはお門違いである

ただ、相手に対する嫌悪を感じるなどということではない。自分と違う考えが気に食わないのは人間らしい姿である。当然それを捨てろとは言わない。冷静に私は貴方の考えが嫌いであると述べれば良い。相手もまずそれに対して逆上するようなことはない。もし怒ればそれこそ無礼である

尚、貴方の考えが嫌いと言ったときに気をつけるのは、間違っただけではないということである。思考と本人は別物である。本人は思考そのものではない。だから貴方が嫌いと言っただけではいけない。こういえば無礼なので相手に怒られて当然である

また、思考と実行も別である。そう考えているからといって実際にそうするかどうかは別である

他にもたくさん無礼といえる事例があり、枚挙に暇がない。日本と共通しない点には特に注意が必要である

-cΛ, cΛΛ, 4-?, JεΛe, JεΛo

[VeΛYolo>]

-cΛは近い。cΛΛは遠い

ある物事とある物事の距離が空間的・時間的・心理的に近いことである。空間的な近さはたとえばbεΛ -cΛ (近い駅)。時間的な近さはc> Jel -cΛ (近い日に)。心理的な近さはh-dΛ -cΛ (近い友人)

また、数量の近さも表わせる。但し、約という意味ではない。約は概数を表わすVc-である。f000 Vc-で約五千である。ではf000 -cAはどれくらいの数か

一般的にf000 Vc-は0Lf0~f00Lくらいまでの狭い範囲である。狭い範囲の桁を四捨五入してf000になる数である。一方、f000 -cAの方が広く、0f00~f0LLくらいまでの範囲を表わす

数学ではともかく、日常生活では上のように細かく区別することはない。ただなんとなく-cAのほうが範囲が大雑把といった感じで使う

cAは遠いこと。全て-cAと同じ語法で、意味だけが逆。空間的な遠さ、時間的な隔たり、心理的な疎遠さを表わす

4-7は準ずるものを表わす。それそのものではなく、それに近いものである。つまり程度や関係の近さを表わす。>cc7 4-7でりんごに準ずるもの、つまりりんごのようなもの。h-dA 4-7を近い友人としてはならない。友人のようなものである

-A e-cJ- 4-7 I-は殴るようなことをしたという意味である。これは日本語にありがちな婉曲用法ではない。婉曲なら結局は殴ったということである

だがこれは婉曲ではないので実際には殴っていないことになる。殴るというほどのことではなく、もう少し弱くひっぱいたり、或いはもっと強くぶっ飛ばしたりといった意味合いになる。大体実際より弱くという意味で解釈される

名詞を取っても同じことである。I- eC (c-Aだと彼女は恋人だという意味であるが、I- eC (c-A 4-7だと彼女は恋人のようなものだという意味である

4-7は複合語前置要素で、~に近いという意味がある。4-7VcMCは死に近いから瀕死である。瀕死はVcMCに近い状態である

ところが出そうで出ないくしゃみは4-7e--7でなくJoAe--7である。JoAeは実行されない、不発なという意味である。瀕死は死に近い状態だが、くしゃみが出そうで出ない状態はくしゃみの状態とは全く違う

瀕死はそのまま死へ向かっていく状態で、瀕死と死は連続した状態である。だがくしゃみの予備動作とくしゃみそのものはまるで異なる別の動作である

瀕死から死へ移行していくのに比べると、くしゃみの予備動作とくしゃみは見た目にも

動作が全く異なる。死は息の弱い状態が徐々にゼロへと移行していく。だが、くしゃみは全然違う。息を吸う動作と爆発的にそれを吐き出す動作ではまるで逆である。予備動作とくしゃみは全く別の行為である

このような場合、<cc>ではなくJoAeを使う

逆にJoAoは実行されたという意味である。V-J JoAoで始まってしまった戦争。-Ao JoAoで実行された計画。<-c> JoAoで発射された爆弾

JoAo, JoAeは主に行為を取る。会議や戦争などのイベントが特に多い。人はふつう取らない。取ると文脈にとって解釈するしかない

## -VΛ, cVΛ

[Ve^4olo>]

-VΛは主に物理的な強さを表わす。力のあることを指す。精神的に強いことも指す。<->も同じである。では何が違うか。前者は攻撃する上での強さで、何かに働きかける力が強いことを指す。後者は防御的な強さで、物理的には打たれ強さ、精神的には心の強さを表わす。前者が攻撃的で外向的なら、後者は防御的で内向的である

同じ体が強いといっても、力の強さは働きかける方なので、腕っ節がいいことはI- e^ -VΛ (o^ >-cなどという。<->だと筋肉が良いことではなく、打たれ強いことを言う。より筋肉についていうときは>-cでなくVc>eという。ただし、Vc>eとする場合、-VΛとは共起しやすいが<->とは仲が悪い。>-cだと<->の場合は特に病気に強い意味にとられかねない。また、(o^ (Λ-の場合、-VΛはあまり使わず、<->と仲が良い。これは心が打たれ強いことを指す

## -し, cl, ol, el

[Ve^4olo>]

確率を述べる語。-しは100%かそれに近い値。clは高確率。olは低確率。elは0%かそれに近い値。確率といっても日常的にこれらの語を使う場合は所詮主観的な確率である。どのくらい話者がそうであろうと思っているかを表わす目安に過ぎない

公的な場面や科学的な場面で使うこれらの語はもう少し確率に対して慎重である。公的な場面で-しといえれば必ずそうでなければ責任を負う

さて、日常的な言葉に直すとこれらをそれぞれ「必ず」、「多分、恐らく」、「もしかした

ら]、「絶対ない、ありえない」である

これらは抽具を取れる。解釈は文脈による。eJ) -しだと絶対降る雨。<-Λ -しだとたとえば出席者候補の話をしているときなら絶対呼びたい女など。Joλ- -しは絶対起こる事故。このように、これらは何の確率についていっているのか分からないので具体的な解釈は文脈による

副詞のほうが解釈はやや簡単である。?e-e -しは絶対行く。VoμC-e eしは絶対死なない。動詞の起こる確率を述べたものなので解釈は容易である

-し-, -しc, 0-Λ, 0cΛ, ?-I, ?cl, C-?j, Cc?, Ce-, Cec

[VeC4olo>]

抽具を取る

-し-は正確。-しcは不正確。-し-は事実に合っていて信頼できるさま

0-Λは仕事の内容や作品の精度がいい加減で大雑把。人に関していう場合、仕事の仕方が大雑把というように、気持ちでなく性格を指す。0cΛは性格に関するので、几帳面なさま。?-Iは人の気持ちについて表わす。寛容で、少しのことは気にしないこと。?clは心が繊細でデリケート ScΛ -し-は事実に整合した判断。ScΛ 0cΛは細かい点までの考慮した上で  
の判断

C-?jは態度や様子がきちんとしているさま。意味は広く、解釈は文脈による。人の態度がきちんとしているとは具体的には丁寧だったり真面目だったりすること。他にも実直、率直、誠実、正直など

物事の場合は様子が詳細だったりきちんとしているさま。C-e C-?jは詳細な調査。きちん  
と調べた調査である。整然としたという意味ではない。それはμe<

Cc?jはいいかげん。人がいい加減で雑なこと。物事が雑でいい加減なこと。適当で乱雑で  
中途半端なこと。人の態度がいい加減だったり雑だったり、物事がいい加減なこと。C-e C  
c?jでいい加減な調査

Ce-は正しい。道理、法律、事実、法則、基準などから外れないさま。誤りのないという  
意味である。>ccμ Ce-は正しい論理。>-c> Ce-はあるべき姿勢という基準から外れない正



しい姿勢

ㄱe-は広い。正確なという点では-ㄱ-を含み、真実なという意味ではㄱ-ㄱやㄱㄱoを含む。ㄱe-はそれらの語の上位概念に当たる

ㄱecは不正な、正しくない

-ㄱ?, ㄱ?

[Veㄱ?ㄱo>]

-ㄱ?は得意、上手。ㄱ?は下手、苦手。ㄱ-ㄱ -ㄱ? ㄱㄱeㄱ -ㄱ?で数学が得意な女。-ㄱ -ㄱ?で得意の数学。詳細に言えばㄱ-ㄱ ㄱ -ㄱ? ㄱㄱeㄱ -ㄱ?と-ㄱ -ㄱ?

-ㄱ?はある物事のやり方をしっていて合理的に失敗なく行えるさま

-ㄱ>-, -ㄱ>c

[Veㄱ?ㄱo>]

-ㄱ>-は論理的な。論理的なという意味が基本だが、アルバザードでは論理性が重んじられるため、それがそのまま賢いとか「理由のある尤もな」といった意味に通じる。ㄱa -ㄱ>-は論理的な言葉とも賢い言葉とも尤もな言葉とも取れる

-ㄱ>-は人もしくはその付随物を取れる。付随物とは論理的な人が論理的な才覚を見せる場面で行う何かである。論理的な人が議論の場で論議をした場合、>cㄱ -ㄱ>-といえる。だが実際論理的なのは論議ではなくその人である

このように他にも人を取る形容詞は付随物を通してその人を表わせる。人を取る形容詞は原則として付随物も取れる

-ㄱ>cは非論理的。愚かで非合理的、尤もでないなどという意味を持つ

アルバザードでは論理性のあることが好まれるため、-ㄱ>-は良く使われる誉め言葉である。日本語で「それは論理的だね」といって誉めることは少ない。そもそも論理的であることがあまり誉め言葉には聞こえない。むしろ中立的な評論に聞こえる

だがアルバザードでは-ㄱ>-は誉め言葉で、日常的にも良く使われる。相手の発言の受け答えに-ㄱ, ㄱ-, -ㄱなどと答える代わりに-ㄱ>-と肯定することもできるくらいである

-ㄱ>cもまた貶し言葉として良く使われる。ㄱㄱㄱやㄱㄱなど違って本人を目の前にしても

言える罵倒である。eeΛやcΛなどといえば相手は当然怒る。だが-し>cは確かに相手が-し>cであるかぎり相手は怒れない

日本人なら不機嫌になって拗ねるところだが、それはアルバザードではありえない。-し>c言われたほうは厳粛にそれを受け止めるか、或いはなぜ-し>cかを聞き返す。そうしないで怒り返したりするとふつう自分に対して恥ずかしいとか心苦しい感じる

-し>o, -し>e

[Veʔʧob>]

-し>oは時間通りの。時間に正確で時間厳守。人、乗り物、イベントなどに使う。ことの起こりが時間通りであることを指す。人や列車の到着や出発、イベントの開始など、ことの起こりの時間が予定通りであることを指す

ゆえに時計の時間が正確という意味では使えない。何もことが起こらないからである。正確な時計は>elʔ -し>oではなく>elʔ -し-。>elʔ -し>oだと目覚ましの鳴る時間が正確な時計という意味になる。目覚ましは開始が考えられるからである

そのほか、<-cʊ -し>oは時間通りの爆発、<-cʔ -し>oは時間通りに爆発する爆弾、>cʊ -し>oは時間通りに来た娘のほか、出産予定日通りに産まれた娘とも取れる

-し>eは逆で、時間を守らない、時間にルーズな。Λo- -し>eは出産予定前後に産まれた娘とも

-しΛ, cしΛ, Vʊʌ, Veʌ, ʌc-V, ʌccV

[Veʔʧob>]

-しΛは正統な。cしΛは異端の、破格な

-しΛはある系統における分派の中で最もその系統にとって純粋でその系統の本質を受け継いでいるものを表わす。血筋や宗教や伝統、習慣、文化などに使う。血筋でも教理でも文化でも商品の流通でも何らかの系統であれば良い

人も取れる。<-Λ -しΛで正統な血筋の女などの意味

-しΛには合法という意味はない。合法はVʊʌ。法に合致するさまである。基本的に何でも取れる。それが合法であるというだけである。空気でも何らかの点で合法性があれば取れる

Velは違法

また、-lは正統な血筋も表わすので>co -lといえは正統な血筋の娘とも取れる。だが、これは血筋でなく宗教など、ほかの解釈もありえる。教祖の教えを良く受けた娘がいるとする。これは非嫡出だが教祖から見ればその宗教にとって彼女こそ後継者にふさわしい。つまり宗教的に正統な娘である。と、このような解釈もありえる

そこで嫡出を専門に表わす語がlc-Vである。これは正妻の子という意味である。lccVは逆に妾の子。庶出である。一夫多妻において第二婦人以降の子も非嫡出なのでlccVである。これらは人及び付属物を取る。>co lc-Vは嫡出の娘。μ- lc-Vは嫡出子のいる家

ℓ-Λ, ℓcΛ, lol, lel, o>ℓ, e>ℓ, Λol, Λel, ℓcΛ-, ℓcΛc

[Veℓʷolb>]

ℓ-Λは思わず笑ってしまうような愉快で楽しいさま。興味深いという意味ではなく、愉快の意味での面白い。ℓcΛはつまらなく退屈なさま

lolは興味深い。奇妙で面白い場合も興味深いということでlol。日本語では事件が起こったときに面白いというと不謹慎だが、lolだと不謹慎ではない。無論、ℓ-Λは不謹慎である

lolは当事者も非当事者も言える。事件の犯人も被害者も平然とlolという。興味深いことはアルバザードでは美德であるため、不謹慎だという発想にはふつつ至らない

lelはつまらない、面白くない、興味を惹かれない。ℓcΛは退屈で、近い意味があるが、愉快でないことを表わす。lelは興味の観点からつまらないことである。愉快かどうかはそもそも関係ない

つまらない勉強は興味がないということでlelを使う。つまらないお笑いは笑えないのでℓcΛである

o>ℓは嬉しい。自分の欲求が満たされたことを意識したときの状態。幸運ではない

e>ℓは悲しい。喜ばしくない自体に遭遇したときの嘆かわしい気持ち。不運ではない

人を哀れむ気持ちでもない。悲しい人という用法はない。悲しい主人公、悲しい少女はこちらが同情したくなる主人公や少女のことであるが、<c-Λ e>ℓだと悲しんでいる少女である。こちらの気持ちではない

Λolは幸せ。幸福である。だが幸運ではない。その時点での状況に満足しているさま。c7Λ  
Λolで幸福な暮らしぶり。<-Λ Λolで幸せな女。>-7J Λolで幸せな結婚。全てその状態で満足  
しているさまを表わす

Λelは不幸。その状態に満足していないどころかむしろ不満があるさま

ΛcΛ-は幸運。幸福ではない。物事が偶然にも自分の都合の良いように運ぶさま。つまり  
運が良いさま。<-Λ ΛcΛ-でラッキーな女。-Sc ΛcΛ-でラッキーな籤。つまり当たり籤。<el  
7- ΛcΛ-でラッキーな学校。だがこれだけでは具体性に欠く。たとえば回りは爆弾で破壊さ  
れたのにたまたま戦火を免れた学校など

ΛcΛcは不運。運が悪いさま

## εoε, εeε, l-cl, lccl

[Ve(4olo>]

εoεは匂いが強いさま。εeεは匂いが弱い。客観的には匂いの分子が高密度であるさま。  
主観的には分子が高密度である上、更に鼻がつまっていないことも必要

l-clは良い匂い。lcclは臭い。匂いの強さではなく、匂いの種類。匂いの良悪である

εoεとlcclは日本語ではしばし混同される。あの女は香水臭いというが、香水が臭いはず  
がない。香水は動物の匂いを使ったものがあるにせよ良い匂いのものを使っている。香水  
そのものが臭いはずがない。売り物にならないからである。なのに日本人は香水臭いとい  
う。これはεoεとlcclの分化が曖昧な証拠である

一方、アルカでは匂いの強弱の良悪は精密に分化している。香水がどんなにきつかり  
とlcclとはいわない。εoεである

V-Λ7 εoεは匂いの強い果物で、匂いの良悪は不明。桃もように香りが強い果物を指す。  
V-Λ7 lcclはドリアンのように臭いもの

Λe< εoεは匂いの強い息。良悪は不明なのでミントを食べた後の強い清涼感のある良い匂  
いでも、ニンニクを食べた後の強い臭気でも使える

体臭は日本人のようにあれば何でも臭いとは言わない。ある程度体臭があるのは当たり  
前なので、感じれば即臭いということはない。体臭を感じる程度ではεoε止まりである。た  
だ、それを不快に感じた瞬間lcclになる。口臭も同じ



l-を副詞にすると「たくさん」「何度も」の意味。e-oJ-- l-は何度も殴った。回数を数えられる動詞と共起する

よく～したものだ と解釈する場合もある。-A lo>-- l- 7o- といえば「よくここを訪れたものだ」と訳せる

l-にかかる副詞はCclAやM-7など。CclAは非常に多い。M-7は多すぎる

一方、lclは少ない

l-o, l-e, >cl-, >clc, (M-A, (MclA, l-l), lcl)

[Ve(4ob>]

l-oは偉大。偉い、立派。地位や身分が高く人物も優れているさま。人と付属物を取る。<-A l-oで偉大な女。<-l l-oで偉業

l-eは偉くないさま。地位や身分が低く、人物も無能なさま

>cl-は高貴。身分や地位が高いこと。王族は高貴なので当然>cl-だが、社長は地位が高いので>cl-といえる。日本語では社長は高貴とはあまりいわないので惑わされないように

>cl-は身分が高いことだけをいう。人物が優れているかは不明

>clcは身分が低いこと。下賤

(M-Aは高尚。身分の問題ではない。理性や精神が高尚なこと。知性や教養が高く、倫理もわきまえているさま。人と付属物を取る。<-A (M-Aで高尚な女。J-c> (M-Aは高尚な人が集まるクラス

(MclAは下等、下賤、下品のほかに、娯乐的、享乐的、野蛮といったニュアンスも持つ。-loA (MclAは享乐的な趣味などとも取れる

l-l)は態度が尊大なこと。横柄、傲慢も同じ。自分を必要以上に誇示し、同時に他人を見下す様子。悪い意味

lcl)は控えめ、謙虚。自分を実際より低く扱い、他人をむしろ見上げる様子。やりすぎ

ると悪いことだが多少の謙虚さは好まれる。<-A lcl7で謙虚な女

物にも使える。大きく華麗な花の中でひととき小さく咲いている花などは>cA- lcl7といえる。逆に周りが小さいのに一つだけ大きく咲き、周りの花に影を作って太陽光を遮断するような花は>cA- l-l7である。つまり偉そうな花である。嫌われるが、そういう花が好きな人もいる

### l--J, l-cJ

[Ve^Yob>]

l--Jは逞しい。体が健康で筋肉質なさま

l-cJは貧弱で貧相な

### l--C, l-cC

[Ve^Yob>]

l--Cは見かけが良いさま。人の服装が良いさま。顔が良いという意味ではなく、身なりが良いこと。また、服のセンスが良く、かっこいいさま

l-cCはみすぼらしいさま。<-A l-cCでみすぼらしい女。J-e l-cCでみすぼらしい服。擦りきれたり履きつぶしたのも意味する。I-J l-cCで履きつぶした靴

### l-e, lce, lo3, le3, Jo>, Je>

[Ve^Yob>]

Jo>は複雑。仕組みや体系が複雑なこと。問題などの抽象から髪型のような具象も取れる。

Ac- Jo>で複雑な髪型。セットするのに面倒な髪型のこと

Je>は単純

le3は難しい。Jo>と違って難易度が高いことを表わす。le3なら大抵Jo>といえるが、同一ではない。フェルマーの定理は問題としては非常に単純であるが、難易度は極めて高い。このような場合、le3ではあってもJo>ではないといえる。ゆえに両者は同一ではない

lo3は簡単。難易度が低いことを表わす。Ye^ lo3は簡単な問題。すぐに解けるもの。Ye^ C Je>は単純な問題。簡単かどうかはわからない。フェルマーの定理はJe>だがle3

l-fは面倒。難しいとか複雑だということではない。労力がかかることである。しかも大抵は難しくない単純作業の場合に使う。労力がかかる上に退屈である。このような場合に面倒だということでl-fという

lcfは簡単。lcfは難易度が低いという意味だが、lcfは面倒くさくないという意味である。労力がかからず、時間もかからない。更に場合によっては退屈さえないかもしれない

## l-l, lcl

[Ve'ʧob>]

l-lは重い。重量があるさま。重量に関して使い、抽象的な意味は少ない。罪が重いとはいえない。ʧo ʧAである。つまり、程度の大きさはいえない。責任の重い仕事ともいえない。身分や地位に関しても使えない

l-lは重量のほかに体のだるさも表わす。<-A l-lは重い女かだるい女か分からない。繋詞の場合、-A cʧ l-lだと体重があるという意味で、-A A--c l-lだと体がだるいという意味である。繋詞では両者を区別できる

体がだるいとき、体が重く感じる。だからl-lという。比喩ながらも重いという意味が残っている

あの女は愛が重すぎるというときはl-lを使えない。その抽象的な意味はない。その場合は>cA-l-

重い仕事もl-lではない。もしl-lといえば荷物運びなどの仕事を意味する。精神的に辛い仕事という意味にはならない

また、重大なはʋoʌであってl-lでない。程度が甚だしいのはʧA。眠くて瞼が重いときは単に眠いと表現し、o>oを使う

lclは軽い

## l-l>, lcl>

[Ve'ʧob>]

l-l>は重荷であるさま。料理が胃にもたれるさま。l-f l-l>だと重荷な仕事。できればなくなっほしい重荷であることを指す。<-A l-l>は重荷な女。一緒にいると面倒ばかりか



けて厄介な女

ㄹㄹ>は逆にできれば一緒にいたい人や物。心のよりどころ。また、心の気楽さ。<-ㄹ ㄹㄹ>は心のよりどころになる仕事。<-ㄹ ㄹㄹ>はよりどころになる女

ㄹ-ㄹㄹ, ㄹㄹㄹ

[Ve(ʧolo>]

ㄹ-ㄹㄹは悲観的。物事が上手くいくだろうと考えがちな傾向にあるさま。ネガティブでペシミスティックな気持ち。人と付属物を取る。ㅇㄴㄴ ㄹ-ㄹㄹは悲観的な考え。<-ㄹ ㄹㄹㄹは悲観的な女

ㄹㄹㄹは楽観的。物事が悪くいくのではないかと考えがちな傾向にあるさま。ポジティブでオプティミスティックな気持ち

ㄹ-ㄷ, ㄹㄷ<, ㄹㄷ<, ㄹe<

[Ve(ʧolo>]

色を表わす。茶、桃、灰、紫の順

ㄹ-ㄷは茶色。褐色。茶色らしい茶色は勿論、黄土色からこげ茶色までを含む。土のようにやや黄色い茶色も含むし、トーストの焦げ後のようなこげ茶も含む

日焼けした肌は黒、赤、茶のどれか

髪の毛を茶に染めた場合もㄹ-ㄷ。ブルネットもㄹ-ㄷ

木々が緑から赤を経て茶色になったらㄹ-ㄷ

茶色は木や土の色である。木は白っぽいものや黄色っぽいものもあるが総じて茶色が多いし、土もアルバザードのものは中心的な茶ではないが、総じてㄹ-ㄷに入る

茶色は落ち着いた色というイメージがある。その点では灰色と同じだが、茶色は更に暖かい色というイメージも加わる。落ち着いたことがあって暖かいことから家具など、家庭内の物に好まれる

逆に灰色は後述のとおり落ち着いた色があるが、暖かみはない。それを上手く活かしたのが机であろう。家庭の机は団欒を招くために大抵茶色くしている。一方、オフィスや学校の机は落ち着いて仕事をはかどるようにするために灰色のものが多い。日本でもおおよそ同じである

また、木や土など、身近で手に届く自然の色でもある。これらの事情から黒は基本、自然、落ち着き、安心、暖かいといったイメージを持つ色である

黒は桃色。ピンク。薄い桜色からやや赤めなピンクまでを含む。白がかった赤のことである

ピンクは肉の色で、そこから肉体の部分を表わせる。たとえば唇は肉体の一部で赤みがかっていて、色はピンクが健康かつ艶かしく良いとされる。爪や頬や乳首や性器も同様である

ピンクは抽象的な意味として性的な意味を持つ。性に関わる色である。肉体を連想するからである。この黒はやらしい対話、下ネタ

ただし、卑猥な感じではなくむしろ婉曲な感じがする。黒だと同じ淫らでも硬い感じがするが、黒は卑猥ではなく婉曲な感じがする

ピンクは薄いピンクであるとあまり卑猥な感じがなく、暖かで幼げで柔らかいイメージがある。それらの連想から甘い記憶をも連想させる。アルバザードはテレビなどで、良い回想シーンには薄いピンクが背景か周囲を取り巻き、それが回想であることを表わす

ピンクが濃いとやらしい意味が如実に出る。風俗などは濃いピンクの看板が多い。性欲を掻き立てる色である

少女は薄いピンクを好むが、濃いピンクは好まない。濃いピンクを着ていると淫乱であると揶揄される

また、太っている人はピンクを避ける。だが、ピンクを着せるとより太って見えるので、他人は太っている人を見るとピンクの服が似合うと考えがちである

このように、ピンクは濃さで意味合いが変わるため、注意のいる色である

黒は灰色。グレイ。白っぽいグレイから黒っぽいグレイまで含む。銀も光沢が少なく、広く見れば黒といえる

黒は灰やアスファルトの色

黒は灰の色であることから、終わってしまった残骸を連想させ、そこから死を連想させる。更に死から静かさも連想させる。ゆえに黒は死や静かさの象徴となる。実際、黒は俗語で殺すという意味がある

アルバザードでは静かさを必要とするものは好んで灰色を取り入れる。パソコンのよう

に神経が苛立つものは沈静化させるために灰色を選ぶことが多い

leくは紫。青みがかった紫、つまりバイオレットから赤みがかった紫、つまりパープルまで含める

また、醤油やコーラのような黒い紫もleくといえる。同時にこれらはyclともいえる

逆に雲や煙のような白っぽい紫もleくの周辺の成員である

紫は昔、貴重な染料であったことから未だに高貴な色として認識されている。一方、青は冷静沈着で、赤は情熱である。そして高貴は情熱よりは冷静沈着と共に連想される。ゆえに赤紫より青紫のほうが高貴である

むしろ青紫が高貴を表わすようになったせいで、対極にある赤紫はむしろ下賤を象徴するようになった

宝石でも青紫のほうが好まれる。髪を染めるにしても青紫のほうが好まれる。ルシーラ・クミールは若干青黒いような紫に髪を染めたことがあった。これは高貴さを象徴して使徒をまとめようと考えたためであるといわれている

## l-yl

[Ve(ʧob>]

l-ylはいらいらした気持ち。物事の進行が思い通りにいかなかったり遅かったりしているせいでじれったくて怒っているさま。人や物を取る。l-e l-ylはいらいらさせるような仕事。<-l l-ylはいらいらさせる女か苛立っている女のどちらか

## l-S, lcS

[Ve(ʧob>]

l-Sは親切。困っている人や弱い人を無報酬で助けてやるさま。金銭など、見返りを求めたらいくら助けてもl-Sではない

説明が丁寧な文章を親切な説明、親切な手紙などというが、l-Sではない。JeV (→や、JeV ɔobɔɔ)などという。JeV l-Sという親切な人による親切な内容の文。たとえば、君を助けようなどという内容の文

lcSは不親切

## l-7, lc7, lo7c, le7c

[Ve^4ob>]

l-7はピンと張った状態。lc7はその逆で、ダラーンとした状態。二次元にも三次元にも使える。人にも物にも使える。顔や腕の筋肉を弛ませられる

lo7cはle7cの集まりである。縮れは皺がいくつも寄り集まって縮まったものである。どちらも二次元、三次元に使える。紙を少し折れ目をつけたくらいでは皺であるが、無数に皺を与えるとその紙は縮れた紙といえる

髪の毛は皺にできるが、皺程度では目立たないのでふつうlo7cの段階で問題にされる。だから皺の髪というのはふつう言表されず、縮れ髪が言表される。逆に顔の場合、一本の皺でも問題になる。ゆえに顔の皺についてはle7cが使われる。顔にlo7cということもできるが、老人のように皺くちゃになった顔をいう。したがってlo7cは皺くちゃにするという意味もある

## l-lJ, lclJ

[Ve^4ob>]

l-lJは動きの大きいこと。動的なさま。アクティブな様子である。物の反応が活発であることや、人が活動的であることを指す。>-cl-77 l-lJで活発な化合

し-7 l-lJで活動的な絵。勿論、絵が動くのではなく、躍動的という意味。実際に仕掛けで絵を動かしても同じくl-lJといえる。これは本来的な意義である

<-A l-lJで活動的な女。精力的な女

lclJは非活動的な。物が不活性な。液体が淀んでいるさま。elKe lclJで淀んだ泉。もう殆ど水が沸かず、水の循環が行われていない非活動的な泉のこと

<-A lclJは非活動的な女。内向的とか引きこもりと連想されやすいことは確かだが、それそのものではない。あくまで非活動的でアクティブでない女。休日は家でじっとして、スポーツや趣味などに出かけたりしない女

## l->, lc>

[Ve^4ob>]

l->は適した。ある条件に合うさま。むしろその条件から見て好都合であるさま。抽具を取る。<-A l->で適任な女。何に適任かは不明。<-A l-> -leA <-l (aでこの仕事に適任な女

というように具体化する

l-e l->だと適任で条件に好都合な仕事。Ycl l->は適した金。たとえば香典として適切な額の金という意味や、何かを買うのに足りる金という意味。Vcl l->で適切な診察。症状に合わせた回復に都合の良い診察

lc>は不適。適さないどころか条件にとって都合が悪いという意味

l->e, lc>e

[Ve^4ob>]

l->eは時間が多くかかる。ふつう悪い意味。良くても中立。l-e l->eで時間のかかる仕事。人も取れる。<-l l->eでのろい女。人の場合、行動に時間のかかるのんびり屋のことで、やはりふつうは悪い意味

lc>eは時間のかからない。人も取れる。その場合は行動が素早い人

l-^, lc^

[Ve^4ob>]

l-^は深い。あるものの底や内部までなかなか届かないさま。深い谷はOcl l-^。深い穴は>-l l-^。積もった雪も深い。穴や谷は底があるので貫通していない。では、トンネルのように貫通したものにl-^はいえるか？これはいえる。深いトンネルはlo^o^ l-^

ここにあげたのは細長い棒状や筒状のものが多く、別に細長くなくてもl-^といえる。目鼻の掘りの深さはl-^である。鍋も平鍋と深鍋があり、深鍋はl-^である

椅子に深く腰掛けるは距離に関することであるものの、l-^は使えない。Jc^e h-^でもない。これは電車や路面などで足を広げてスペースを多く確保して座ることである

深く座るはJc^e lceである。奥に座るである。椅子はどちらが前面かといえば背もたれの無いほうであろう。なぜなら人が背もたれに背をかけて座ると人の前面がそちらを向くからである

椅子の前面から見て背もたれは奥まったところにある。そこに座るのでJc^e lceである。背もたれの無い椅子も同じ考えが適応される。つまり人の顔が見えるほうがその椅子の前面になる。そこから後ろへ下がるほど奥である。ゆえに背もたれの無い椅子でも同じくJc^e lceという

同じく電車の長椅子やソファなども全てlceである

濃いという意味はない。濃い霧は $l-l$ ではない。 $le-$ である

深い森も $l-l$ ではない。 $l-l$ である。また、深い森は単に広い森でなく、木々の密度が濃密なというニュアンスがある。それを活かして訳すと $eZo$   $Y-l$ である。これこそ深い森であるといえる。いずれにせよ $l-l$ は使えない

深遠なという抽象的な意味もない。深い考え、研究、知識などは $l-l$ ではない。深い考えは $oJo$   $kl$ である

程度が大きいことも表わさない。深い悲しみは $e>C$   $C$ 。深い興味、眠り、傷なども同様。深い緑は $-V$

深く息を吸うも $J-9J-e$   $l-l$ ではなく $J-9J-e$   $C$ 。これは大きく息を吸うと同じ意味。ぜひいぜいはあはあ何度もいう場合は $J-9J-e$   $l-$   $C$ といってもいいし、 $h-h-e$ や $--h-e$ といっても良い

親密なという意味もない。深い関係、男女の深い仲は $l--?$ 。彼と深く付き合うなは $CoC-o$   
 $l$   $l--?$   $-l$

$lc$ は浅い。語法は $l-l$ と同じ。物理的な意味だけで抽象的な意味はない

日本語の場合、浅いは深いと違って時間も表わす。開店してから日が浅いというような例である。 $lc$ は時間は表わせないので $lc$ ではない

## $l-l$ , $lc$

[ $Ve^C^Yo$ ]

$l-l$ は分別があつて思慮深いさま。人と付属物を取る。 $l-l$   $l-l$ ,  $Jo$   $l-l$ など

$lc$ は分別がなく浅はかなさま

## $l-l$ , $lc$

[ $Ve^C^Yo$ ]

$l-l$ は陽気。考えが前向きでポジティブ。しかも素行や態度も外交的。 $l-l$ ,  $lc$ は物の見方を表わしているが、 $l-l$ は外見的内的的を合わせた総合的な人格の明るさを指す

人と付属物を取る。 $l-l$   $l-l$ ,  $>c$   $l-l$ など

$lc$ は陰気。考えが後ろ向きでネガティブ。素行や態度も内向的。総合的な人格の暗さ

l-Λcは良～中立の意味。lcΛcは悪～中立の意味

### l-μ, lcμ

[Ve(ʧolo>)]

l-μは自動。o>c l-μで自動ドア。lcμは手動。o>c lcμで手動ドア

いずれも物を取る

l-μは機械仕掛けという意味合いがある。自然の力でそうなるというよりは人間が作った仕掛けによる自動である。ゆえにeμ) l-μというのは天然の降り注ぐ雨ではなく、撮影に使う自動で雨を出す装置、つまり撮影用の雨を作るシャワーなどを指す

l-μの自動性は完全な自動性からある程度の主導性を含むものまでである。自動ドアは手で押せば自動で開くドアがあり、手動との中間的存在である。このような場合でもかろうじてl-μということができる

水洗はl-μの場合、手を出せば自動で水が出るもの。蛇口を捻るものはlcμ

時計は自動巻きはl-μ、手巻きはlcμ

いずれにせよ、自動といっても完全に自動とはいいがたいものが多い。自動ドアも自動蛇口もいずれにせよその前まで移動したり手を出したりする動作までは自動ではないからである。だがl-μは完全でない自動の場合でも表わせるので狭く見ないよう注意が必要

### l-c, lcC

[Ve(ʧolo>)]

形容詞の場合、-, cの区別がなければどちらも同じ意味になる。l-c-eは言いなりにするで、lcC-eは言いなりにになる。いずれにせよl-c, lcCは「言いなりな」。人と付属物を取る。<-Λ l-c, he) l-cなど。he) l-cは内容が相手の言いなりになっている

### l-し, lcし

[Ve(ʧolo>)]

l-しはざらざら。lcしはつるつる

l-しは感触がざらざらという意味ではない。表面がまっ平らで何も表面になればそれはツヤツヤなのでlcしである。だが、表面に小さな突起が無数にある状態をザラザラと捉え、l-しという。ヤスリや生姜おろしのようにザラザラしてしかも固いものや、タオルや舌のよ

うに感触は柔らかいものの、表面にヒダが多く平らでないものを $\text{ㇿ-ㇿ}$ という

### $\text{ㇿ-ㇿ}$ , $\text{ㇿㇿㇿ}$

[ $\text{Ve}^{\text{C}}\text{yob}$ >]

$\text{ㇿ-ㇿ}$ は経験豊富な。玄人の。熟練した。人と付属物を取る。<- $\Lambda$   $\text{ㇿ-ㇿ}$ 。I- $\text{e}$   $\text{ㇿ-ㇿ}$ は経験豊富な人のやる仕事ぶり。he $\text{?}$   $\text{ㇿ-ㇿ}$ は経験豊富な人が書いた流暢な手紙

$\text{ㇿㇿㇿ}$ は経験が浅い。素人の

### $\text{ㇿ-Z}$ , $\text{ㇿㇿZ}$

[ $\text{Ve}^{\text{C}}\text{yob}$ >]

$\text{ㇿ-Z}$ はふさわしい。それに当たるのが当然であるという意味。C $\text{Me}$   $\text{ㇿ-Z}$ は当然の報い。<- $\Lambda$   $\text{ㇿ-Z}$ は何らかの点において当然選ばれる女。Iec  $\text{ㇿ-Z}$ は読む価値がある本。~する価値があるという意味もある

$\text{ㇿㇿZ}$ はふさわしくない。不相応な

### $\text{ㇿㇿ}$ , $\text{ㇿe}$

[ $\text{Ve}^{\text{C}}\text{yob}$ >]

$\text{ㇿㇿ}$ は幅広い。二次元体或いは三次元体の持つある面積について、その幅が大きいさま。幅を求められる以上、その面積は正方形ではなく、長方形、特に細長いものを表わす。たとえば川やノートや道などは好例である

細長いものの横幅しか表わさない。それ以外の比喩的な用法はない。幅広い知識はIe $\text{u}$   $\text{ㇿ-}\text{d}c^{\text{C}}$ 。幅広い支持は $\text{ㇿ-I}$   $\text{ㇿ-}$ ,  $\text{ㇿ-I}$   $\text{ㇿ-}\text{d}c^{\text{C}}$ など

$\text{ㇿe}$ は幅狭い

### $\text{ㇿㇿ}$ -, $\text{ㇿㇿ}c$

[ $\text{Ve}^{\text{C}}\text{yob}$ >]

$\text{ㇿㇿ}$ -は本当の、裏の、実の、名目上でない、黒幕の。抽具を取る。<el  $\text{ㇿㇿ}$ -で実学。<- $\Lambda$   $\text{ㇿㇿ}$ -で黒幕の女など。I- $\text{o}$   $\text{ㇿㇿ}$ -で実の母親

$\text{ㇿㇿ}c$ は名目上の、上辺だけの、虚偽の、偽りの、表向きの。C<- $\Lambda$   $\text{ㇿㇿ}c$ で上辺だけの彼女。Cel $\Lambda$   $\text{ㇿㇿ}c$ で表向きの性格



<el lɔɪŋcで虚学。偽りの学問。哲学など、実例や実世界のことをあまり省みず、自分の机上の空論で考えを進めていく学問。アルバザードでは実世界を直接反映しないので軽視される。データを使って実証したり、科学的な手法を取れない学問のこと

武士道などもこれに当たる。仮に結果的に真理を捉えていたとしても過程が根拠不十分なので軽視される。答えが偶然一致した数学の回答と扱いは同じである

Veŋc lɔɪŋcで名目上の会社。架空の企業

## lɔ>ŋ, le>ŋ

[Veŋcɣɔɪɔ>]

lɔ>ŋは典型的な、型どおりの、型にはまった。つまりプロトタイプである。動作でも概念でも良いが、いずれにせよある集合の中心的事例、典型的事例を表わす

たとえばV-ŋ lɔ>ŋで典型的な果物。具体的にはりんごのことである。cŋe lɔ>ŋはその人の中での典型的なデート。内容やコースがお決まりのデート

le>ŋは型破りの。或いは周辺のな。Ocŋ le>ŋは型破りの挨拶。ŋaŋc le>ŋは周辺のな鳥、非典型的な鳥。たとえばŋ-ŋc (孔雀)

<-ŋ lɔ>ŋは何らかの点で典型的な女。解釈は文脈による。或いはŋcŋで表わす。<-ŋ lɔ>ŋ ŋcŋeŋ cŋe (デートがお決まりな女) など

## lɔŋŋ, leŋŋ

[Veŋcɣɔɪɔ>]

lɔŋŋは言葉で表わされたという意味である。言葉という形に具象化されたという意味ではVɔɪŋcも使えるが、既に具象である人物について言葉で表現されたときもlɔŋŋは使える。尚この場合、Vɔɪŋcは使えない

<-ŋ lɔŋŋは言葉で表わされた女。たとえば目撃者が犯人の女の顔を言葉で伝えた場合などがこれに当たる。もしモニタージュを作って具体化すればVɔɪŋcとも言える

eel lɔŋŋは今述べたような事情の顔など

逆にleŋŋは言葉で示さず、暗黙のうちに秘めて伝えられたという意味を持つ。leŋŋは言葉を使って表わさないため、言葉以外の何かで伝えることになる。それは身振りでも信号でも良い。或いは敢えて何もしないことで伝えても良い。たとえば沈黙で何もしないこと

によって却って怒りをあらわにする場合が考えられる

$\mu e^{\circ} le^{\wedge}$ は暗黙の依頼。 $\langle -\wedge le^{\wedge}$ は状況によって解釈が変わる。たとえば物事の伝達を暗黙のうちに済ませる女など

## $le^{\circ}, le^{\circ}$

[ $Ve^{\circ}yob>$ ]

動作の程度が甚だしいさま。川、滝、火、台風など、有形で動的でないと使えない。激しいと訳すが感情は無形なので $so le^{\circ}$ とはいえない。あえて言えば怒り狂って暴れた場合、動作が伴うので言える。 $le^{\circ}$ は穏やかなさま

## $o^{\circ}l, e^{\circ}l$

[ $Ve^{\circ}yob>$ ]

$o^{\circ}l$ は一定でない、変動の。抽具を取る。 $l-e^{\circ} o^{\circ}l$ は何らかの点で変動する仕事。 $\langle -\wedge o^{\circ}l$ は何らかの点で変動する女。仕事が変わるとか気分が変わるなどである。 $ee^{\circ} o^{\circ}l$ は値が変わる株

$e^{\circ}l$ は一定。不変で変動がないさま。 $o^{\circ}Z e^{\circ}l$ は変動のない一定な規則

## $o^{\circ}l, e^{\circ}l$

[ $Ve^{\circ}yob>$ ]

$o^{\circ}l$ は共有、共通、共用。同じものを誰かと共に使うさまや、同じ特徴を別の誰かや何かと共に持っているさま。 $e^{\circ}Z o^{\circ}l$ は共用の部屋。誰と共用しているのかは $o^{\circ}l$ で示す。たとえば $e^{\circ}Z o^{\circ}l o^{\circ}le^{\wedge} l-$

$le^{\wedge} o^{\circ}l$ は共通の性格。 $\langle c^{\wedge} o^{\circ}l$ は一夫多妻における妻から見た夫。つまり共有の男

$e^{\circ}l$ は特有、固有、独特、自分の、ユニーク。他と共用や共通しないこと。 $e^{\circ}Z e^{\circ}l$ で自分専用で他と共用しない部屋

## $o^{\circ}l, e^{\circ}l$

[ $Ve^{\circ}yob>$ ]

$o^{\circ}l$ は交差を表わす。交差角度は気にしない。平行でなければ良く、直角でも浅くても気にしない。物理的に何かと何か交差しているさまを表わす。プロトタイプは線だが、三

次元体でも細長いもの動詞が交差していれば使える。人でも組み体操などでは使える。㊦㊧  
㊦㊧, -㊦㊧ ㊦㊧, <-㊦㊧ ㊦㊧など

e㊦㊧は平行。完全な平行でなく少くらい曲がっていても日常的には問題ない。おおよそ  
平行に見えればe㊦㊧である。勿論、数学では完全に平行でなくてはならない。e㊦㊧も物理的  
な意味しかもたない

## e㊦㊧-, e㊦㊧c

[Ve㊦㊧㊦㊧c>]

e㊦㊧-は躁鬱の躁。極端に外交的な状態。e㊦㊧cは逆に鬱。極端に内向的な状態

人と付属物を取る。<-㊦㊧ e㊦㊧cは鬱な女。Se㊦㊧ e㊦㊧cは鬱にさせるような天気。曇りなど。  
晴れが嫌いな人にとっては晴れ

## e>-㊦, e>c㊦, e>c㊦, V-㊦㊦-, V-㊦㊦c

[Ve㊦㊦㊦c>]

e>-㊦は他人本位の。自己中の逆で、他人のことを考えて行動するさま。美德。但しやり  
すぎると悪徳。自分が不幸なのに身を切って他人に与えることはないという考えに反する  
ため

この倫理は募金でも同じ。貧乏人の募金は美談にはならず、見栄張り、貧乏からの現実  
逃避、自分より下の者を見つけて喜ぶ、愚か者など、必ず悪く解釈される。日本と逆の価  
値観で、たとえ良かれと思ってやっても悪行になるので注意

e>-㊦は人と付属物を取る。<-㊦ e>-㊦, ㊦-㊦ e>-㊦など

e>c㊦は自己中、自分本位、自分勝手、我儘。気まぐれではない。気まぐれはe>c㊦

e>c㊦は気まぐれ、気分屋。気分がすぐ変わり、しかもそれに従って態度や振る舞いをころ  
ころと変えるさま

日本よりアルバザードのほうが感情を素直に表わすので、多少の気分屋は許される。だ  
が、やりすぎは悪徳。首尾一貫しない態度は嫌われる

e>c㊦も人か付属物。取るものはe>c㊦と変わらない

V-㊦㊦-はおせっかい。本人はいいつもりだが、相手は嫌がっている場合。V-㊦㊦cは不干涉  
で冷たく助けてくれないさま。㊦c㊦は助けようと思いつかない状態で、気がつかない人間。  
或いは気がついて助ける気がない。V-㊦㊦cは助けがいと分かっているのにあえて無視す

る冷酷な人間。或いは頼まれても断る人間

## oΛ?, eΛ?

[Ve^4olo>]

oΛ?は連続。連なって連続したさまを表わす。空間的・時間的な意味を持つ。抽具を取る。空間的に連続したものを取る。席、雲、人、ベッド、山など空間的に隣接した状態が蛇のように連なっていけば良い。二つだと単に>oであるから、最低三つは連なってなければならぬ

時間的な連続も取れる。会議の次に会食があり、その後会見がずっと続いている場合、これらのイベントが連続しているといえる。途中に会議会食会見以外の何らかのイベントが入った場合これらは連続していないことになる

だが、ちょっと休み時間が入った程度ならまだoΛ?といっても良いと判断する人がいる。しかしながらそこは厳しく判断してoΛ?といえないとする人もいる

eΛ?は単一。連続していない単一のものを指す

## eΛZ

[Ve^4olo>]

eΛZはできる限りの。最大限の。その人やその物の能力や努力を最大限発揮させるさま。抽具を取る。l-l eΛZで最大限の援助。<-Λ eΛZは解釈が文脈による。たとえば提供しうる限り最大限の女とか、ある劇団で役として映画などに出演させうる団員の中で最良の女など。様々な解釈を持ちうる

## eJ-, eJc, >el-J, >elcJ

[Ve^4olo>]

eJ-は気持ち良い。快樂な。心地良い。快適な刺激を受けた結果、気分が良いさま。原因は何でも良い。誉め言葉で気分が良くなっても良い。マッサージで気持ち良くなっても良い。そのほか、風、光、音、味、愛撫、セックスなど、多くを原因に取れる

leJ eJ-は気持ち良いピアノ。弾き心地が良いピアノや、聞いていて音が心地良いピアノなどを指す

eJcは不快な。気持ち悪い。気分の悪くなる刺激を受けるさま。eel eJcで見ていると気持ち

ち悪くなる顔、或いは気持ち悪がっている顔。厳密に言えばeel c eJcとeel - eJc

これらが肉体的な快不快であるのに対し、>el-J, >elcJは精神的なものを指す

>el-Jは清々しい、さわやかな。認知した結果、気分が良く晴れやかになるさま。抽具を取る。<-Λ >el-Jはさわやかな女。l-V >el-Jはさわやかな朝

日本語と違ってleV >el-Jも可能。これは風物の一つで、夜の綺麗な空気と月の光を浴びたときにアルバザードの人間が感じる気持ちである

>elcJは気持ち悪い、不気味な、気色悪い。認知して気分が悪くなり、鬱になったり吐き気を催したり具合が悪くなったり悪心がするさま

VpJc>-c >elcJは気持ち悪い死体。cJ >elcJは吐き気を催す匂い。sc >elcJは気持ち悪くなる味。JcJ >elcJは見たり触ったりして気持ち悪い肌。脂ぎっていたり、アトピーなどのアレルギーの斑点がある肌。つまり五感全て使える

また、何かを認知しなくても病気などで自ずから気持ち悪いと覚えることがある。これも>elcJで、-Λ Λ--c >elcJなどという。健康で具合が良く晴れやかな場合も認知を介さず>el-Jといえる

## eJol, eJel

[Ve^4ob>]

eJolは身持ちの固い人やお堅い内容の物を指す。<-Λ eJolで身持ちの固い女。lec eJolでお堅い内容の本

eJelは淫ら。<-Λ eJel, lec eJelなど

## o^Λ, e^Λ

[Ve^4ob>]

o^Λは耐えるさま。人や物を取る。物の場合は耐久性のあるという意味。具体的な耐える内容はc^c。<-Λ o^Λで我慢する女、我慢強い女

e^Λは甘えたさま。耐久性のないさま。<-Λ e^Λで甘えた女。J-é e^Λで耐久性のない服

## eV-, eVc

[Ve^4ob>]

eV-は湿った、潤った、濡れた。物が水を含んでいるさま。液体以外を取る。金に潤うとか湿っぽい生活など、抽象的な意味はない。物理的に物体が水を含んでいるさま

<-Λ eV-は濡れた女。雨に降られたり水をかけられた女のこと。㊦ok eV-は湿ったパン。濡れたと湿ったの違いはない。濡れたというと湿ったよりたくさん水を含んでいるが、eV-にその区別はない。eV- ㄑo, eV- ㄑeなど、副詞をつけて水量を表わす

eVcは乾いた。乾いた心など、抽象的な意味はない。喉が渴くはΛ--e eVc。食事が水気なくパサパサなのもeVc

### oVI, eVI

[Veㄑㄑob>]

oVIは大胆で豪快でスケールの大きいさま。人や付属物を取る。<-Λ oVIは豪快な女。<-l oVIはスケールの大きな仕事

これらは良い意味だが、oVIIは悪い意味になることもある。大胆ゆえに慎重でなく軽率という意味がある。ㄑool oVIIは大胆な行動である反面、軽率な行動ともいえる

eVIは慎重でスケールの小さいさま。良くも悪くもある

### oㄑㄑ, eㄑㄑ

[Veㄑㄑob>]

oㄑㄑは清潔。綺麗ともいえるが、l-Λㄑと混同しないように。美しいという意味はない。oㄑㄑは清潔である。具象を取る。人、物、水、空気など、具象のものならなんでも

ㄑ-ㄑ oㄑㄑは綺麗な空気。汚染されていない。el oㄑㄑは綺麗な水。化学物質に汚染されていなかったり、泥などが混ざってないもの

eㄑㄑは不潔

### <--l, <-cl

[Veㄑㄑob>]

<--lは縛りが強く窮屈であるさま。態度がきつい、生活がきつい、酒の度数がきついなど、抽象的な意味はない。縛りの強いさま

<-clは緩い。これも縛りに関してのみ。規制が緩いなどの意味はない

## <--Λ, <-cΛ

[Ve(ʧob>)]

<--Λは勤勉。真面目に一生懸命働いたり勉強したり研究したり作業したりすること。美德だが、やりすぎは過労で悪徳。人と付属物を取る。<-Λ <--Λ, <-l <--Λ (勤勉に行った仕事) など

<-cΛは怠け。怠慢。過労以上の悪徳

## <-lo, <-le

[Ve(ʧob>)]

<-loは高潔。自分を厳しく律し、他人をも甘やかさないさま。美德。人と付属物を取る。<-Λ <-lo, しし <-lo (高潔な教え)

<-leは墮落。自分に甘く、律さず、他人はとにかく自分に都合良く動けば良いと考えるさま。悪徳

## hoΛ, heΛ, >-λλ, >cλλ, <->, <c>

[Ve(ʧob>)]

hoΛは純粋な固さに使う。感触の固さについて使う。鉄はhoΛだがボールはheΛである。床はhoΛだがカーペットや布団もheΛである

>-λλは曲げにくい変形しにくい固さについて使う。ワイヤー部分が金属でできたハンガーの感触は固い。ゆえにhoΛである。しかしハンガーのワイヤーは細いので簡単に曲がる。ゆえに>cλλである

<->は壊れにくい固さについて使う。ゴムボールはheΛで>cλλだが<->である

このように、hoΛ, >-λλ, <->は適応範囲も意味も異なる。heΛ, >cλλ, <c>についても同様である

これらは頭が固いなど、抽象的な意味は持たない

## <-λλ, <cλλ

[Ve(ʧob>)]

<-λλは面白みを感じて場や人が興奮するさま。盛り上がった

<cλλは面白みが感じられなくなって場や人が沈静化するさま。白けた。人と付属物を取

る。<-Λ <cΛλ, -lΛ- <cΛλなど

### <-JΛ, <cJΛ

[VeΛYob>]

<-JΛは簡潔。手短で要点を捉えているさま。人と付属物を取る。<-Λ <-JΛは簡潔な態度の女、しお) <-JΛは簡潔な対話

<cJΛは冗長

### <-V, <cV, Y-Λ), YcΛ), し-Y, しcY

[VeΛYob>]

<-Vは華やか。良い意味で派手。性格は表わさない。人や付属物を取る。<-Λ <-Vは華やかな格好の女。服装や化粧をいうのであって性格ではない。J-e <-Vは華やかな服

<cVはさっぱりした。飾らない。服や化粧が良い意味で地味

Y-Λ)はけばい。悪い意味で派手。詳細は<-V。下層の女子高生が派手な化粧をして歩いている場合、Y-Λ)という

YcΛ)は地味。悪い意味で飾らない。飾り気がないさま。服や化粧が地味すぎて目も当てられないさま。中年の女がもう誰からも相手にされないからと、ろくに化粧もしないでみすばらしい顔で出かけた場合、YcΛ)という

また、Y-Λ), YcΛ)は味も表わせる。Y-Λ)は味がこってりして胃に負担がかかりそうなさま。悪い意味。YcΛ)は味気がなくてまずいさま。いずれにせよこれらの語は悪い意味で使われる

し-Yは豪華。金をたくさんかけているようにみえるさま。物をとるが人にも使える。その人の身なりが豪華であることを指す。悪徳

しcYは簡素、質素。美德

### Y->, Yc>

[VeΛYob>]

Y->は得な。利益のある。抽具を取る。I-e Y->, <-Λ Y->など。<-Λ Y->は利益を生む女



℥c>は損な。損失のある

℥-し, ℥cし, ℥e-, ℥ec

[℥e℥c℥b>]

℥-しは密。ある体積や面積を占める複数の物の間にある距離が少ないさま。つまり、同じ空間にできるだけ多くのものが入っているさま。隙間が少ないさま。森などは℥-しといえる。木々が密になった濃い森のことである。人にも使える。人が鯨詰めになっているさまである

抽具を取る。森や人などは具象の例で、スケジュールは時間という抽象の例である。ぎっしりつまったスケジュールは密であるといえる

℥cしは疎

℥e-は濃い。ある空間にある物質がたくさんあるさま。たとえば紅茶の砂糖が濃い場合など。これはコップの中にある液体という空間において、砂糖の物質が多いさまを表わしている

℥e-は何かの中に含まれている成分の比率が大きいとも言い換えられる。紅茶に含まれる砂糖の比率が大きいとe℥e) ℥e-といえる

色には使えない

度合にも使えない。疲労が濃いのは℥c℥

関係も使えない

一方、℥ecは薄い

では℥e-と℥-しは何が違うか。℥e-が表わすのは濃度である。℥-しが表わすのは密度である。砂糖が多い紅茶は℥e-である。℥-しではない。砂糖分子間の隙間が小さいことを言いたいのではなく、紅茶に対する砂糖の比率の大きさを言いたいからである

森の場合、逆に℥-しである。木々の間がつまって隙間が少ないことを言うことによって、少ない空間にたくさんの木があることを言いたいからである

一方、ひげが濃いのは℥-しともいえるが℥-ともいえる。状況によっては℥c℥でも良い。℥-しといえばひげ間の距離が少ないことに焦点を当てている

だがふつうひげが濃いという場合、森と違って顔全体を見渡している。全体が視野に入

っているため、ひげの密度よりひげ全体の数の多さに焦点が当たるのがふつうである。ゆえにl-というのがふつうである

一方、ひげが長い場合はkɔʌである。一本だけ伸ばすわけでもなからうから、ひげがkɔʌといえはふつうついでにl-でもある

## ʏɔʊ, ʏeʊ

[Veʕʔɔʌ>]

ʏɔʊは発酵。ʏeʊは腐敗。ふつう物を取る。食材や死体などである。ただ、人も取ることがある。<-ʌ ʏeʊで腐ったような悪い女。性格が悪かったり醜かったり、腐っているかのよなという意味である

## ʏɔʌ, ʏeʌ

[Veʕʔɔʌ>]

ʏɔʌは有料。ʏeʌは無料

いずれも抽具を取る。商品、サービスなどである。人も取れる。<-ʌ ʏɔʌで何かを無料でしてくれる女、無料で買える女、無料でセックスできる女など

## h-, hc

[Veʕʔɔʌ>]

h-は空間的な上を指す。立っているときは空の方向。寝ていれば頭の方向。水中や宇宙でも頭の方向を上という

地位が上という意味はない。上位の意味はない。大抵の言語では上が良いものを表わし、上位を表わす。ところがアルティス教は上にはエルトが住み、下にはサールが住んでいる。そして彼らは対等なので下を悪い意味にすることは許されない。ゆえに上は上位を表わさない

能力が高いことも意味しない

数量が勝っていることも意味しない

数も表わさない。ʔよりɒの方が上だという場合もh-ではない

表面という意味もない。紙の上というとは紙から離れた上部か、或いは紙の上側である。紙の上側とは紙を目の前にして奥の側である。紙に字を書くとき、書き始める部分のこと

である。紙の上とは表面のことなのでh-lである

また、池の上を走る鳥という場合もh-ではない。紙と同じくh-lである

関係も表わさない。書面の上ではこう書いてるがという「上」もh-ではない。C<sub>o</sub>Cである

成立条件も表わさない。覚悟の上ですという「上」もh-ではない

更にとという意味もない。殴った上に蹴ったの「上」もh-ではない

hcは下である。詳細はh-

更に、内側にあって見えないものという意味もない。下心、シャツの下にブラジャーを着るなどの下はhcではない。下塗りも同じ

予めという意味もない。下調べ、下準備など

地面に直接という意味もない。下履きなど

## h-l, hcl

[Ve<sup>C</sup>Yolo>]

h-lは表。テープやコインの表など。また、水や体の表面などを表わす。物理的な意味しかない。また、表裏が決めにくいものは見えている側を表とする。服の表裏はそうして決まる

hclは裏

## h-Λ, hcΛ

[Ve<sup>C</sup>Yolo>]

h-Λは広い。二次元体と三次元体の面積部分が大きいさま。面積の大きさを純粹に表わす。面積以外には使えない。公園や部屋は広いとはいえない。敷地面積だけをういことは日常的にはありえないからである

仮に敷地面積だけを指すのなら面積100平方メルの部屋は必ず広いことになる。だが、もしこの部屋の高さが1メルのしかなかったらどうか。必ず狭い部屋だと感じるだろう。つまり部屋が広いというのは面積だけでなく天井までの高さも関与している。つまり、面積でなく体積で広さを判断している

h-Λは純粹に面積の大きさしか表わさないため、部屋は広いとはいえない。C-Jである。森や公園も同じ。C-Jである

逆に、日本語で紙は広いとはいえない。大きい紙である。広い紙はない。これはなぜか。日本語の広いは場所性を伴うからである。公園や部屋は場所になる。ベッドも寝る場所なので広いベッドといえる。だがベッドとほぼ同じ面積を持つ布団は場所ではなく、かける道具なので広い布団とはいえない

紙は場所ではない。ゆえに広いとはいえない。だがアルカの場合、h-Λは面積が大きいことである。そこに場所性は関係ない。ゆえに紙もh-Λといえる

このように、日本語の広いとh-Λは食い違いが大きい。h-Λは面積の大きさだけを表わし、更に場所性を要求しない

h-Λは範囲が大きいことも意味しない。顔が広い。話題が広い。趣味が広いなど寛容という意味もない。心が広いのように

額はh-Λ。顔もh-Λ、或いは頭全体を見ればC-J。鼻が広いのは横幅なのでkʷ。唇は広いとはいわないがアルカでは面積が大きい唇はh-Λ

hcΛは狭い。限定の意味はない。範囲が狭いのように

h-μ, hcμ, hoμ, heμ

[Veʔʧoɔ>]

順に赤、青、緑、黄。それぞれ少し薄いものから濃いものまで取れる。それなりに幅広い範囲を表わせる

但し、日本語ほどアルカの色は弁別的ではない。赤リングは確かに赤い。これはh-μである。だが赤味噌は実際には赤くない。せいぜい茶色であろう。これはh-μでなくl-くである。このようにアルカの色のほうが弁別的ではない

また、青と緑の区別もはっきりしている。青リングは緑リングである

h-μは赤のほかに、財政が赤字という意味もある。アルバザードで赤字を赤いインクで付けたことが始まり

赤は血の色で、人間の目にとって目立つ色である。それだけ衝撃的な色である。特に目立たせたいときに使う。そういう事情で赤字は赤で書かれた

これは赤字だけに限ったことではない。手紙も同様である。手紙、及び文章も赤は注意

を引くための色であり、強調に使われる。もし手紙全部を赤で書いたら相手は相当な衝撃を受ける

また、赤は攻撃的な色である。ゆえに全てが赤い字の手紙は相手に喧嘩を売るようなものであり、無礼である

赤が攻撃的であることから、赤は動的なイメージを持つ。アクティブ、積極的、前向き、陽気、ホット、活性、エタット、攻撃、外交的、ポジティブ、怒りなどは全て赤で象徴できる

火は赤。橙ではない。血も赤

共産主義という意味はない

赤の他人などの意味もない

hc $\mu$ は青。人を沈静化する色である。ゆえに静的なイメージを持つ。消極的、後ろ向き、クール、沈静、エティット、防御、内向的、ネガティブなどを象徴する。落ち込んでいたり鬱で沈静化しているさまを象徴する

尚、 $\mu$ oくは赤と結びつく。 $\mu$ eくは青と結びつく

また、hc $\mu$ は未熟という意味はない

ho $\mu$ は緑。自然に多い色で、人を安らげる癒しの色である。癒すことは行為の一つであるからhc $\mu$ よりも動的である

緑は赤青と同じくらい好まれる色で、安らぎや安定感を象徴する

植物の若芽などの意味はない

he $\mu$ は黄色。人の注意を引くのに適した色。自然界では黄色と黒の縞が危険を表わし、注意を引く色である。現にトラやハチがそうである。黄色もその一員であり、注意を引く色である

注意を引くことから黄色は好奇心を象徴する。好奇心を抱きやすいのは経験の多い老人より経験の少ない若者、特に子供である。ゆえに黄色は幼さの象徴でもある。言い換えれば黄色は子供の色である

実際、アティーリでも四色の悪魔ニムラの一人、黄色の悪魔インプラは好奇心が強く、それがゆえにアルテに罠をかけられ、倒された。このように黄色は好奇心を象徴している

未熟な子供を象徴することから素直や純粹の色であるとともに無知で愚かなことも象徴する。挑発に騙されて倒されたインプラのように、馬鹿の象徴でもある

黄色い声という比喩はない。嘴が黄色いとも言わない

## h-ノ, hcノ

[Ve(ʧolo>)]

h-ノは縦、垂直、鉛直。鉛直とは上下方向のことで、地面と垂直に交わる方向である。ふだんは地面に垂直な方向のことだが、人が寝ていたり水中、空中にいればh-と同じく頭から足の方向がh-ノになる

また、物についていう場合、竪穴式住居のように動かないものなら天地の方向をh-ノという。本のように動かせるものの場合、細長いほうをh-ノという。棒なども同じ

首を縦にふる場合はh-ノ

因みに斜めは(ɔ)で、「傾いた」という意味

hcノは横、水平、地平。縦と垂直に交わる方向のこと。ふだんは自分から見て左右の方向  
日本語ではその物体を正面に捉えたときの左右の側面という意味があるが、hcノにはない。横顔はhcノではない。顔のhcノとは右頬から左頬までの長さについて述べる方向を表わす。横顔という意味はない

箱についても同じ。箱を正面に捉えて、その右と左の面を意味するということはない。あくまで箱の正面の面の右端から左端までの方向を指す

hcノは細長いものの幅を表わす。棒の縦に対する横である。横に棒を切るとは、断面が丸くなる切り方で、キュウリをサラダ用に切るときも横に切るといふ

ここが難しいところだが、hcノは同時に水平方向も表わすわけだから、棒を縦に置けばh-ノだが、横に寝かせればhcノといえる。この場合、hcノはむしろ棒の幅でなく、棒の長さを指す。横笛などもhcノだが、このhcノはまさに笛の長さの方向を表わしている。なぜなら横笛の横は水平方向に寝かせた方向を意味するからである

このように、事情によってはhcノが物の水平方向の長さだったり、物の幅だったりする。h-ノも同じく物の鉛直方向の長さだったり、物の単純な長さだったりする。混同しないように気をつけなければならない

<-ノ h-ノで縦にされた女。<-ノ hcノで横にされた女。寝かされた女と同じ姿勢

-h h-Jで縦に書かれた線。hcJだと横

### h-J, hcJ

[Ve^4ob>]

h-Jは年上。人を取る。物も擬人法的に取れる

hcJは年下

### h-l, hc-l

[Ve^4ob>]

h-lは優れた。能力が優れているさま。或いは地位が上位であるさま。抽具を取る。<-h h-l (上司の女), <-l h-l (優れたできばえの仕事) など

hc-lは劣った。能力か地位に使う

地位に関してはより具体的にh-l^o^o, hc-l^o^oといっても良い

### ho^, ^co

[Ve^4ob>]

ho^は唯一の意味。たった一つのものであることを意味する。<-h ho^だとたった一人の女性。具体的に何について唯一なのかは文脈や^co^で表わす。lec ho^は唯一の本

副詞の場合、たった唯一の行為であることを指す。^e-- ho^だとただ行っただけ。行くことしかなかった。^e-- cJと違うのは^e--したことが心理的に甚小でないという点である

^e-- cJだと行っただけが最低限で取るに足りないことだが、ho^の場合そうではない。それが唯一の行為であることを示している。唯一であるから却って貴重で大事な行為の場合もある。この点でもcJとは意味が異なる

^coは単なるという意味。<-h ^coだと単なる女。良悪はない。純粋な意味で素朴な女を表わす。宝石なら純度の高い宝石などという意味もある。これは良い意味である。逆に悪い意味もある。たとえば単なる女、何の変哲もない女など。つまり、^coは純粋さと変哲のなさを表わす。只、素であることを表わす

副詞の場合、単にという意味である。下心、戦略、計画、予備動作などもなく単純にと

いう意味である。ㇿe-- hoʃは行ったことだけが唯一したことである。一方、ㇿe-- ʃcoは唯一の動作とは限らない

たとえば道々に畏があるので用心して調べながら行かなければならないのに何もせずに行ってしまった場合、単に行ったということでㇿe-- ʃcoという。hoʃとは意味が違う

## cʼ

[Veʼʃob>]

cʼは敢えてという意味。副詞で使うが、形容詞にもなる。<-ʌ cʼは敢えて何かする女、敢えて選んだ女など

ㇿe-- cʼは本当は行かないべきなのだがそこを押して敢えて行ったという意味  
状況によってはcʼはわざと、あくまでなども訳す

## co, ce

[Veʼʃob>]

coは両方。二つあるうちのどちらもという意味。双方、両側という意味もある。刃物が両刃や諸刃であるものは、両側に刃が付いているのでcoである

ceは片方。片側という意味もある。二つのうちの一つ。カッターや刀などは片刃なのでceである

<-ʌ coといえば二人女がいて二人とも。<-ʌ ceは二人女がいてそのうちの一人、片方。もともと数が二つに限られているものは話は尚早い。cʌʃ co, cʌʃ ceなど

## c0-, c0c

[Veʼʃob>]

c0-は左右対称。シンメトリー。l-ʃ c0-は左右対称な手。h-ʃ c0-は左右対称な文字。たとえば0のような字

c0cは左右非対称。アシンメトリー。h-ʃ c0cはたとえばʃ。ただ、ʃ単体ではなく、ʃとʃなら話は別で、互いにc0-である

## S-l-, S-lc

[Veʼʃob>]



S-Iは定期的。周期が決まっているさま。㉔㉗ S-I-, ㉔㉗ S-I-など

S-Icは不定期

## S-し, Scし

[Ve(㉔㉗㉗)]

S-しは太い。棒状のものの断面積が大きいさま。人にも使える。三次元体に使うが、紙に書いた巨漢も太いといえる。実際は二次元体である紙に書いてあるが、これは三次元体である人の三次元性を捨象した結果である。人はこれを擬似的な三次元と認知するため、太いといえる

糸はS-し。線、腕、指、首、胴、麵、ペン、などもS-し

面状に長く伸びているものの幅が広いという意味はない。太い帯は㉗㉗である。眉毛も㉗㉗や㉗㉗-や㉗㉗-しなど

たくましいという意味もない

性格が㉗太いという意味はない

Scしは細い

## S㉗, Se

[Ve(㉔㉗㉗)]

S㉗は怒った。人や付属物を取る

Seは柔和

## ㉗<㉗, ㉗c<㉗

[Ve(㉔㉗㉗)]

㉗<㉗は哀れな。同情を誘うようなさま。抽具を取る。<㉗ ㉗<㉗は可愛そうな女。㉗㉗㉗ ㉗<㉗は可愛そうな事件

㉗c<㉗は蔑まれる。同情の反対。軽蔑が入った反感を誘うようなさま。㉗㉗㉗-㉗ ㉗c<㉗は蔑むべき詐欺師

## ㉗-㉗, ㉗c㉗

[Ve(㉔㉗㉗)]

ㄱ-ㄹは富んでいる。裕福な。特に指定がなければ金持ちという意味。具体的に何に富むかはㄱㅇで表わす。金銭や宝石、鉱物資源、油田など、何かの資源に富むこと。知恵や知識、見識、人脈などに富むことも表わせるがやや比喩的な言い回しである

ㄱ-ㄹは悪徳。金を持つことに興味を持つ人間は少ない。困らない程度にあることが一番。これが良識である。多少の金持ちなら問題ない。その程度の貧富の差はある。だが、それ以上の金持ちは蔑まれる。襲われても国民はまず同情しない。貧乏人がほしがるものを喜捨もせずにはぶらさげているバチが当たったと考えるためである

ㄱㅇは貧しい。貧乏。富んでいない様子。困窮しているさま。貧乏は自由な行動を束縛するので悪徳。貧乏にならないことが望ましい。だが、多少の貧乏は人間を良く育てると考えられ、美德とされる

結局のところ中か中の下辺りの所得が最も好まれる。ただ、たくさん稼いでいるのに無駄遣いして貧乏な場合は全く美德ではない。浪費は美德ではない

また、たくさん稼いだものを喜捨しすぎて貧乏になることも悪徳。自分の身を切ってまで助けるのはかえって悪徳であるとされる。金持ちは行き過ぎない金持ちである程度に金をコントロールせねばならない。少し金持ちである程度まで喜捨するのが望ましい

## ㄱ-ㄱ, ㄱㅇ, ㄱㅇㄱ, ㄱㅇ

[Veㄱㅇㅇb>]

類似性を表わす。順に、同一、類似、相違、反対を表わす。類似性が100%かそれに近いさま、高いさま、低いさま、0%かそれに近いさまを指す

これらは何でも取れる。<-ㄹ ㄱ-ㄱ, ㄹ-ㅇ ㄱ-ㄱ, ㄱ-ㅇ ㄱ-ㄱ, ㅇㅇㅇ ㄱ-ㄱなど、何でも取れる。但し具体的な解釈は文脈やㄱㅇによる

副詞として使っても同じ。-ㄱㅇ- ㄱ-ㄱは同じに書いたという意味。ㄱㅇだと似せて書いた。-ㄱㅇ- ㄱ-ㄱは誰かがしたのと同じく書いたという意味ではない。その場合は-ㄱㅇ- ㄱ-ㄱ ㄹ-ㅇのように格詞を使う

副詞の場合、その行為が何かと同じであることを指す。たとえば手本を見ながら同じように書くとか、横の人がやるのと同じように書くとといった意味である

## ㄱ-ㄱ, ㄱㅇ

[Veㄱㅇㅇb>]

ㄱ-ㄴ은 본물。偽者ではない、本物の。或いは様式や味などが本場の、本格的な

ㄴ은 偽者。ばったもん、贋作、偽造品、変造、イミテイト、イミテーション、レプリカなど

いずれも抽具を取る。<-ㄹ 은 偽の女。主婦なのに警官と偽っている女であるとか、或いは本当は男なのに女の格好をしている偽者の女など、解釈はさまざま

ㄹ은 贋金。le은 偽書。ㄴ-ㄱ 은 絵のレプリカ

## ㄱ-ㄴ, ㄴ은, ㄴ을, ㄴ을

[Ve(ʧolb>]

これらは順に「以上」「以下」「より上」「未満」を表わす。即ち数学の $\geq$ 、 $\leq$ 、 $>$ 、 $<$ のことである。実際に数学用語としてもこれらを $>$ などの意味として使う

これらは数学的な意味以外に、時間的、数量的な意味で用いられる。空間的な意味で使われることはない

時間的な意味の場合、「その時点を含んでそこから未来」「その時点を含んでそこから過去」「その時点を含まないでそこから未来」「その時点を含まないでそこから過去」という意味である。それぞれ簡単にいうと厳密ではなくなるが、おおよそ「以降」「以前、までに」「から後」「まで」などに相当する

数量的な意味の場合、たとえばその数字が $n$ だとすると「 $n$ 以上 ( $n, n+1, n+2, \dots$ )」「 $n$ 以下 ( $n-1, n-2, \dots$ )」「 $n$ より上 ( $n+1, n+2, \dots$ )」「 $n$ より下 ( $n-1, n-2, \dots$ )」という意味になる。今は整数で例示したが、無論小数でも良く、 $n \cdot L$ でも $n$ より下である

また、数量の後に単位を付けても良い

尚、これらはふつう定量を取り、不定量や数の分からない節はふつう取らない

これらはその動詞を説明するのに必要な数の境界線を表わす。その数は時間的な意味でも数量的な意味でも良い

## ㄱ-ㄴ

[Ve(ʧolb>]

後一步の、おいしいというさま。解釈は文脈による。何でも取れる。<-ㄹ 은 ㄱ-ㄴでおいしい女。

何がおしいかは不明。V-J ㄱ-lbは惜しい戦いで、あと少しで勝てた戦い

ㄱ-J, ㄱcJ, ㄱ->ㄱ, ㄱc>ㄱ

[Ve(ʧob>)]

ㄱ-Jは明るい。具象を取る。光が多いさま。十分な光があるさま。人も後光が指していたり光を当てられていればㄱ-J

抽象的な意味はない。色もㄱ-Jではない。将来が明るいなど、肯定的な評価の意味もない。詳しいという意味もない。道に明るいもㄱ-Jではない。性格も明るいとはいわない

ㄱcJは暗い

ㄱ->ㄱは眩しい。具象を取る。人も後光が指していたり光を当てられていればㄱ->ㄱ

抽象的な意味はない。豪華だとか美人だとか立派だという意味はない

単に光を大量に感じて見るのが辛いという意味である。その光は直射光でも反射光でも良い

ㄱc>ㄱは暗い。明るい反対の暗いではなく、眩しい反対の暗い。光をあまり感じられず、見るのが辛いさま。薄暗く灰かであるさま。eZ ㄱc>ㄱとかㄱ-> ㄱc>ㄱなど

日本語と違って暗い本といえる。lec ㄱc>ㄱである。これは部屋の明かりなどが少なく暗く、読むのが辛い本を指す

ㄱ->ㄱ, ㄱc>ㄱはㄱ-J, ㄱcJの下位で、どちらも見づらいという意味を共有する

ㄱ-l, ㄱcA

[Ve(ʧob>)]

ㄱ-lは易しい。ㄱcAは辛い。これはㄱoㄱ, ㄱeㄱとどう違うか。取るものは共通する。抽具である

ㄱ-lはㄱoㄱと同じくしばしば難易度が簡単であることを指す。だがその根底には難易度ではなく、労力や代償が少ないという意味がある。つまりㄱ-lは労力や代償やリスクが低いことから、自然と難易度の低さに繋がっているだけである

交通整理は作業としては簡単である。難易度は低い。だが、これはしばしば危険である。また、悪天候に見舞われることも多く、精神的にも肉体的にも重労働である。但し前述のとおり難易度は低い。つまりㄱoㄱであるが決して楽ではない。このとき、この仕事はㄱoㄱで

はあるがㄱ-ㄴではない

ㄱㄴは逆に労力や代償やリスクが高いさま。辛いという意味である。ㄱ-ㄴと同じものを取れる。主に仕事などの抽象を取るが、物や人も取れる。ㄷㄸㄹ ㄱㄴは切るのに苦勞するりんご。或いはまずくて食べるのに苦勞するりんごなど。ㄴ-ㄴ ㄱㄴは一緒にいると辛い女

労力やリスクが大きいことから精神的な辛さという。精神的に苦しい、辛いということ。苦しいはV-ㅅもあるが、これは肉体的な苦しき

### ㄱ-ㅅ, ㄱㅅ, ㄱㅆ, ㄱㅈ

[Ve(ㄱㅅㅆㅈ)]

満足度や充足度を表わす。ㄱ-ㅅは満足度100%かそれに近い。ㄱㅅは高い。ㄱㅆは低い。ㄱㅈは0%かそれに近い。順に満足、十分、不十分、不満足

何についての満足度かはさまざま。量でもあり質でもある。el ㄱ-ㅅは満足な量の水。ㅅ-ㄱ ㄱ-ㅅは満足のいく絵

また、条件に対する適応度も表わす。Jeㅅ ㄱㅅは何かについて十分な写真

物理的に何かに満ちているさまも表わす。-ㄱ- ㄱ-ㅅは満ちた海。elKe ㄱ-ㅅは水嵩が増えて水面がぎりぎりまで上がってきている泉。液体だけでなく気体でも固体でも良い

### ㄱ-ㄴ, ㄱㄴ, ㄱㅆ, ㄱㅈ

[Ve(ㄱㅅㅆㅈ)]

は頻度を表わす。ㄱ-ㄴはいつも、常に、必ず。ㄱㄴはしばしば、よく、頻繁。ㄱㅆはたまに、まれに、あまりない。ㄱㅈは絶対しない、必ずない、滅多にない

### ㄱㅅ-, ㄱㅅ<ㅅ, ㄱㅅ<ㅆ, ㄱㅅ<ㅈ

[Ve(ㄱㅅㅆㅈ)]

方角を表わす。順に南北西東。その方角を向くことを意味する。eel ㄱㅅ<-なら南を向いた顔。ㅅ<ㅅ ㄱㅅ<-なら南向きの窓

### ㄱㅅㄴ, ㄱㅅㄴ

[Ve(ㄱㅅㅆㅈ)]

ㄱㅅㄴは外交的。社交的な性格。性格が積極的でポジティブというよりは、その人付き合

いの良さに焦点を当てる

㇗㇗㇗は内向的、シャイ。性格が消極的でネガティブとは限らない。人付き合いの悪さに焦点を当てる

人や付属物を取る。<-㇗ ㇗㇗㇗,㇗㇗㇗ ㇗㇗㇗など

## ㇗㇗㇗, ㇗㇗㇗

[Ve(㇗㇗㇗)]

㇗㇗㇗は専門。専攻や学部学科も表わせる。<-㇗ ㇗㇗㇗は専門家の女。<-㇗ ㇗㇗㇗は専門の仕事

㇗㇗㇗は門外漢。全く専門でないさま

## ㇗㇗㇗, ㇗㇗㇗

[Ve(㇗㇗㇗)]

㇗㇗㇗は一つ前の。抽具を取る。<-㇗ ㇗㇗㇗は何かについて一つ前の女。㇗㇗㇗ ㇗㇗㇗はある時点から見た昨日、前日。㇗㇗㇗ ㇗㇗㇗は前回の試験。㇗㇗㇗-㇗㇗㇗ ㇗㇗㇗は去年のディアセル

㇗㇗㇗は一つ後の、次の

## ㇗㇗㇗, ㇗㇗㇗

[Ve(㇗㇗㇗)]

㇗㇗㇗は心が広い。寛大なさま、度量の大きいさま。人の失敗や欠点を厳しく追及せず、思いやりをもって優しく接するさま。厳しく罰さず、緩く罰して許すさま

人と付属物を取る。<-㇗ ㇗㇗㇗, ㇗㇗㇗ ㇗㇗㇗など

㇗㇗㇗は心が狭い。度量の小さいさま

## ㇗㇗-, ㇗㇗㇗

[Ve(㇗㇗㇗)]

㇗㇗-はまっすぐ。形しか表わさない。正直という意味はない。<-㇗ ㇗㇗-は正直ではなく姿勢がまっすぐな女や、進行方向がまっすぐな女など。-㇗㇗ ㇗㇗-はまっすぐな線

このまっすぐさはどの方向を向いていても良い。前後でも上下でもかまわない。立っていても寝ていてもかまわない

ㄱㄴcは曲がった。これも抽象的意味はない

## ㄱㄴ-, ㄱㄴc

[Ve(ㄱㄴc)ㄴ>]

ㄱㄴ--eㄸはㄴV-e ㄴe -ㄴ ㄱㄴ-と同じ意味。つまりㄱㄴ--eㄸは「ㄴㄴをここに置く」という意味。したがってその形容詞は「ここに置かれた」である。言い換えれば「ここにある」である

ㄱㄴ-はここにあるという意味で、抽象的な意味はない。まさに物理的にこの場所にある場合を指す。ゆえに具象を取る。<-ㄴ ㄱㄴ-, <eㄴ- ㄱㄴ-など

ㄱㄴcはあそこにある、あそこの

## ㄱㄴㄴ, ㄱㄴㄴ

[Ve(ㄱㄴc)ㄴ>]

ㄱㄴㄴは兼用。複数の目的で使われるさま。eㄴㄴ ㄱㄴㄴは晴雨兼用の傘。何について兼用かはㄴㄴで表わす

ㄱㄴㄴは専用。eㄴㄴ ㄱㄴㄴは雨傘、或いは日傘。eㄴㄴ ㄱㄴㄴ (ㄴㄴeㄴ ㄴㄴ)で兼用でない晴専用の日傘

人にも使える。<cㄴ ㄱㄴㄴは一夫多妻における夫のこと。複数の妻に兼用されることから。無礼な言い方ではない

## ㄱㄴ

[Ve(ㄱㄴc)ㄴ>]

くしゃくしゃなさま。面が皺だらけなさま。ㄴㄴㄴより細かくない皺である点でㄴㄴㄴとは異なる

## ㄴ-ㄴ, ㄴcㄴ

[Ve(ㄱㄴc)ㄴ>]

ㄴ-ㄴは自然、天然。人間が人工的に作っていないもの。自然物はみなそうである。木、山、星、岩、風、水、光、動物などである

人間も生殖によって自然と産まれてくるものはㄴ-ㄴである。だが、人工授精や人造人間などの場合はㄴ-ㄴでなくㄴcㄴ

lc㊦は人工で、人の技術で作られたもの。天然の動物でも人工授精させたものやクローンはlc㊦である。品種改良した植物もlc㊦である

抽象的なものにも使える。言語は自然言語はl-㊦であるが、人工言語はlc㊦である。たとえばアルカはel㊦ lc㊦である

## l-㊦, lc㊦, ㊦a㊦-㊦, ㊦a㊦c㊦, ㊦ol㊦, ㊦el㊦

[Ve㊦㊦ol㊦]

l-㊦は上品、lc㊦は下品。㊦a㊦-㊦は優雅、㊦a㊦c㊦は粗野。どれも人と付属物を取る。㊦-㊦ l-㊦㊦, ㊦a㊦ l-㊦㊦など

l-㊦と㊦a㊦-㊦の違いは何か。l-㊦は精神的、内面的な上品さである。高い教養や高い倫理観、高尚なマナーや作法や喋り方や振舞い方をわかまえているさまである

一方、㊦a㊦-㊦は見た目重視である。肉体的、外見的な上品さである。服装や挙動、物腰、態度などについていう

l-㊦と㊦a㊦-㊦は重複する面もある。喋り方や態度などはどちらにもいえることである。ただl-㊦な態度は内面的なもので、目に見えないが何となく上品だと感じる態度に使う。㊦a㊦-㊦な態度は外見的なもので、スカートのだなびかせ方や座り方など、目に見えるところで上品だと感じる態度に使う

人と話していて特に向こうが上品なそぶりも見せないのにこちらが何となく上品な人だと思ふ場合、それはl-㊦である

㊦ol㊦は正々堂々。卑怯でなく倫理をわかまえ、人道にそむかず、約束を守る態度である

㊦el㊦は卑怯。自分に都合なことは倫理や人道や約束に背いても得ようとする態度

これらも人と付属物を取る。㊦-㊦ ㊦ol㊦, -㊦ol㊦ ㊦el㊦など

## l-㊦, lc㊦, l-㊦㊦, lc㊦㊦

[Ve㊦㊦ol㊦]

l-㊦は賑わしい、込んでいる。人がたくさんいるさま。良悪はないが、アルバザードは一般に孤独を愛するので人気の多いところは好まない

抽具を取る。㊦-㊦ l-㊦㊦はその女の周りにたくさん人がいるような女。人気があるかどうかは不明で、単に人がたくさんいることだけを表わす



映画館で良い席に座れば当然周りにたくさん人が来る。端を選べば人は少ない。このとき、もし良い席に女が座れば彼女は<-A I-7である。端に座ればlc7である。人気のあるなしとは必ずしも関係がない

I-7は物や場所も取る。9oA I-7で人がたくさんいる道

lc7は逆に人気のない寂れた様子

I-7Cは人気がある。そこに人がいるかどうかということではなく、人気があること。人気があってもネットアイドルなら周りに人はいないのでI-7Cだがlc7である。このようにI-7とI-7Cは別物である

抽具を取る。<-A I-7C, I-6 I-7C, oJcJ I-7Cなど

lc7Cは人気のない

I->, lc>, 7-C, 7cC

[Ve^4ob>]

I->は初めて。第一回目のという意味である。人も取れる。<-A I->は初めての女。具体的な内容はCoc

lc>は最後の。最終回という意味

7-Cは始められた。開始されたという意味で、初回という意味とは関係がない

7cCは終わった。終了したという意味。-C- 7cCで終わった会議

7cCはもうだめだという意味はない。a7A 7cCは終わった人生だが、「だめだ、もう人生終わったも同然だ」という意味にはならない。よりシビアにより単純に「死んだ」という意味である

I->-, I->c

[Ve^4ob>]

I->-は安全な。害が及ぶ心配のないさま。抽具を取る。<-A I->-, 7-l I->-, lec I->-, oJcJ I->-など

I->cは危険な。害が及びそうなさま

この害とは事故や犯罪や災害などによる怪我や病気といった肉体的な害だけでなく、金

の損失などの経済的な害や、精神的に悪影響という害も意味する。lec l->cといえは有害図書である

また、l->-はリスクが低いことも意味する。l->cはリスクが高いでもある

## l-V, lcV

[Ve(ʧolo>)]

l-Vはうるさい、やかましい、騒々しい。音が大きくて不快なさま。音を出すものを取る。

<-Λ l-V, <o l-Vなど

うるさいといってもしつこいとかわずらわしいという意味ではない。あくまで音が大きくて不快なさまである。人がベラベラ話したりごちゃごちゃ説教するときもl-Vである

l-Vは悪い意味で使う

lcVは静か。騒々しい音がなく、騒音が気にならないさま。ふつう良い意味で使うが、静けさが却って不気味なときは悪い意味になる。eZo lcVは良くも悪くもある

## le-ʃ, lecʃ, Jel-, Jelc, le>o, leʃʃ, >elʃ, ʃeolo

[Ve(ʧolo>)]

le-ʃは賢い。一般的な賢いで、様々な点で頭が良いさま。人と付属物を取る。<-Λ le-ʃなど。lec le-ʃは読むと賢くなる本や、書いた人は頭が良いだろうと思わせるような本など

lecʃは愚か

Jel-は思考が柔軟なさま。多角的に思考でき、偏見が少なく、何より間違いを見つければすぐに正せるさま。Jel-は美德

Jelcは頭が固いさま。悪徳

le>oは頭がぼーっとして回らない馬鹿であるさま。頭の回転が遅くぼーっとしている馬鹿。ただの馬鹿でなく時間を無駄にもする馬鹿である点でlecʃより性質が悪い

leʃʃは迷った知恵であるさま。よくわかっていないのにわかっている気になっているさま。lecʃより性質が悪い。<-Λ leʃʃ, l-ʃ leʃʃなど

>el>は天才な。努力をあまりしないでも少ない情報だけでなんでも理解したり創造したりできる頭脳。極めて良い誉め言葉。人と付属物を取る

アルバザードでは天才は先天性と後天性の合体がなせる業であると考えられている。特に後天的な努力が重要で、これを怠れば何も意味がない

∅eoloは馬鹿。lec∅より意味がずっと軽い。アホ程度か。∅eoloと言われてもそれなりの理由があれば別段怒る気はしない。理由がなくても口癖のように∅eoloという人がいるので、こういわれても有名無実なので別にわざわざ怒る気もしない。ただ、それは勿論冗談関係にあればである

## lo∅, le∅

[Ve∅∅olo>]

lo∅はメイン。主を表わす。主副が考えられるもののうち、主を表わす。抽具を取る  
le∅はサブ。副である

## leV-, leVc

[Ve∅∅olo>]

leV-は純粋。余計なものがなく、混じり気のないさま。プロトタイプは水や血などの液体だが、抽具を取れる。人に使うと心が純粋という意味になる。また、体が汚されていないという意味にもなる

el leV-だと混じり気のない水。<-∅ leV-は心が純粋な女、或いは処女、或いは何らかの点で純粋な女

∅-∅ leV-は埃などの汚れのないか少ない空気

-∅ leV-は哲学や他の学問とは独立した純粋な数学だけの要素を持った数学

結局のところ殆どの場合、何について混じり気がないかは文脈か∅∅∅で表わす

leVcは不純。混じり気のあるさま。心や肉体が穢れているさま

## lo∅∅, le∅∅

[Ve∅∅olo>]

lo∪は範囲内を示す。範囲は抽象いずれでも良いが、ふつう何らかの集合を取る。co∪と違って、「～にとって」という意味はない

V-∧∪ lo∪は範囲内の攻撃。範囲は抽象的な範囲でも良い。たとえば∩c∧- lo∪は条件に合う範囲内での約束で、条件という範囲は抽象である

le∪は範囲外

これらは人として或いは異性としての交際範囲も表わせる。<-∧ le∪で眼中にない女

### I-S, lcS, J->, Jc>

[Ve∧∩lo∪>]

I-Sは熟した。食材が食べごろなさま。人や家畜が成熟して大人になったさま

lcSは未熟

J->は若い。人や物が若いさま。食べごろという意味や成長して大人になったという意味ではなく、単に平均的な寿命から見て今の年齢がまだ前半部にあることをさす。食べごろと関係がないので木でも石でも原子でも若いといえる。寿命があるからである

人の場合、成熟していても若いことがある。∧0歳はJ->/I-Sで、10歳はJ->/lcSである

Jc>は老いた。人が老いたさま

### lc>J

[Ve∧∩lo∪>]

限定された。ある範囲の中に限られたさま。数や意味などの抽象や場所、人、物などの具象を取れる。<-∧ lc>Jで何らかの点で限定された女

### lcZ∩

[Ve∧∩lo∪>]

道に迷った。人を取る

### lo-, lc

[Ve∧∩lo∪>]

lo-は器用な。手先や手足など、体が良く動いて細かい作業ができるさま。人と付属物を取る。<-∧ lo-は器用な女。>el∩ lo-は器用に縫われた縫い物

locは不器用

loc, loc

[Ve'ʧob>]

locは予想外の、意外な、誤算の。抽具を取る。解釈は文脈かcc。<-l locは予想外の女

locは予想通りの。副詞だとやっぱり、やはりなど。-l I Choaʧhに相当

loc, loc

[Ve'ʧob>]

端の。縁、淵、隅、際など。末端の部分。細長いものは先っぽと尻尾の部分で、つまり短い辺を指す。長い辺はふつう指さない。テーブルのように広いものになり、細長くなると四つの辺が全て端になる。崖などの終端部、あと一歩行けばもう穴という最後の地面部分も端である

locは端以外の部分。パンなら耳以外の白い部分

>-s, >cs

[Ve'ʧob>]

どろどろの。ヨーグルト状の

S-ʧは糊のような接着感があるが、>-sにはない。S-ʧは他の物体との接着性について表わし、>-sはその物体そのものの形状について表わす。ヨーグルトや泥は>-sであってもS-ʧではない。逆にシールの糊面はS-ʧであっても>-sではない

>csはカピカピな。どろどろしていたものやどろっと塗れていたものが乾いてパリパリするさま

>-ʧ, >cʧ, <-ʧ, <cʧ

[Ve'ʧob>]

>-ʧは心が温かみのあるさま。美德。c<のより厳密な言い方。人と付属物を取る。<-l >-ʧは温かみのある女。ʧa >-ʧは暖かい思いやりのある言葉

>cʧは心が冷たく冷淡なさま。悪徳



>㉑は予想より早く、もう、といった意味。>c㉑はようやく、今更などの意味で、予想や期待などより遅い

>oは既にで、>cは未だ～ない。否定の意味を内包しているのでoは不要

## >-㉑, >c㉑

[Ve(ʧob>)]

>-㉑は既成、既存、出来合い。既に存在するもの。o㉑㉑ >-㉑は既存の考え。e㉑ >-㉑は出来合いの料理。スーパーの惣菜やコンビニ弁当など

>c㉑はあつらえの。既成でなく自分でオーダーして注文したもの。或いは自分で作り上げたもの。要するに自分がオーダーして他人が作ろうと、自分で作ろうとどちらでも良い。

J-e >c㉑はオーダーメイドの服

## >e

[Ve(ʧob>)]

>eはもう一度、再度の。>-㉑ >eは再婚。㉑e-e >eはまた行く

>eは前に最低一回同じことをしていることが前提である。同じことといっても全く同一でなくても良い。たとえば再婚はふつう前と違う人と行うが、>eを使って良い

また、>eは前に何回あろうと、最低一回同じ経験があれば使える。更に、これきりという意味もない。再婚して更にまた離婚して後に再婚する可能性もある

あと一回だけと言いたいときはM-J ㉑ ho㉑という。M-J ㉑ c㉑ともいえるが、意味が異なる。後者はたった一回という意味である。c㉑は㉑という数の少なさを述べているだけで、回数制限については何も言っていない。回数制限についてはM-J ㉑と何ら変わらない

M-J ㉑は一回という意味で、その後また何回かあるかもしれない。とりあえず現段階では一回という意味である。ということはM-J ㉑ c㉑も同じである。しかしM-J ㉑ ho㉑はそうではない。一回だけである

一回だけは>eを使っては表わさないので注意

## >c㉑, >e㉑

[Ve(ʧob>)]

>c㉑は空間が埋まっているさま。余分なスペースがないさま。物理的な意味しかない。席





＞oAははっきりした。明白、明瞭、確か、確実。明らかで曖昧さがないさま。証拠が明白、意識が明瞭、合格が確実、判断が明白、態度が明瞭など、全て＞oAである

態度がはっきりしているとは主張を曖昧でなく述べるさまである。喋り方が明瞭で聞き取りやすい場合も＞oAである

また、色が原色という意味もある

＞eAはあやふや、不明瞭、曖昧、ぼやけた、不確実、語源などが不確実で不明。或いは色が原色から遠いさま

＞oA-は既知で、＞oAcは未知や不明。知らないこと。語源不明は大抵＞eAであるが、アルカでなければ＞oAcでもしっくりくる

## ＞oM, ＞eM

[VeC4ob>]

＞oMは新品の。人に使うと未経験者や新人とか処女・童貞といった意味

＞eMは中古の

一度人の手に渡っているかどうかが決めて。物その物が新しいか古いかという問題ではない。また、生産者や仲介者は手に渡ったうちに入らない

新品の靴は店で買えるが、その靴は既にその時点で生産者、問屋、運送業者、販売店の手を渡っている。しかもその時点その時点で一度所有権を引き渡している。問屋が生産者から買った時点で問屋の物である。にもかかわらず客が販売店で買った靴は新品であるので注意。その客がフリーマーケットに出したりして初めて中古になる

## ＞oJ, ＞eJ, JoV

[VeC4ob>]

＞oJは中心を表わす。二つの間の中心にある場合は＞oJでなくJoVを使う

＞oJは二次元体と三次元体に使える。二次元体はたとえば紙に円を描いた場合で、円の中心が＞oJになる。一方三次元体はたとえば球の重心が中心になる

＞oJは円のように軌跡が明示されているものだけでなく、軌跡が良く分からないものにも使える。女を三人の男が取り囲んでいるとき、三人の男は線で繋がっているわけではない。決して円形を描いているわけではない。しかし人間は三人の取り囲む男をひとまとめに認

知し、そこにはないはずの円の軌跡を想定する。これが人間の自然な認知である。そして想定された円の軌跡から中心を考える。その中心とは即ち女である

しかも人間の認知はそれがおおよそ円だと思えば満足する。本当はちょっと楕円だったり、実は円でなかったりするかもしれない。だが、人間にとってはおおよそ円だと認知できれば常に $\succ\circ\cup$ を考えることができる

勿論、円だけでなく、四人が四隅を囲っていれば、見ている人は彼らに四角形を想定する。そしてその重心に女を置き、 $\succ\circ\cup$ という。このように、厳密な図形は問題にならない。単に囲んでいる何かから軌跡を想定し、その重心に $\succ\circ\cup$ を置くという大雑把な任地である

一方、 $\succ e\cup$ は囲んでいる軌跡を指す。周辺、周りという意味である。四角形で囲んでいる図を想定すればその軌跡が $\succ e\cup$ になる。円なら円周が $\succ e\cup$ になる

また、囲むものがなくても $\succ e\cup$ を想定できる。人間は、誰かが立っている周りの空間を想定することができる。状況によって半径は異なるが、立っている人の周りには彼のパーソナルスペースがあり、そのスペースの境界線が円の軌跡を描いている

そして人間はその実際には存在しない円をパーソナルスペースとして想定する。こうなれば囲うものがなくとも $\succ e\cup$ を想定できる

この点は $\succ\circ\cup$ も同じである。囲むものがなくとも想定さえすれば中心を考えられるため、 $\succ\circ\cup$ が使える

尚、 $\succ\circ\cup$ ,  $\succ e\cup$ は空間的意味でしか使わない。ふつう、節も取らない。時間を表わす「〜ごろ」という意味もない。- $\mu\alpha\lambda\lambda$ は周りという意味と時間の概数を表わす意味があるが、 $\succ e\cup$ にはない。時間の概数はただの概数と同じく $\vee c-$ である。c)  $\langle e-$   $\cup\circ\vee c-$ のように

$\cup\circ\vee$ は間を表わす。二つのもの間を指す。三つ以上の場合、 $\succ\circ\cup$ を使う。二つというのは厳密に二つの数とは限らない。たとえば四人いて、二人ずつグループで分かれているとき、その四人は二つと見なされる。何人いようと二つのグループとみなされれば良い。それらの間を表わすのが $\cup\circ\vee$ である

また、ある期間をも示す

$\succ cl-$ ,  $\succ clc$

[Ve(4olo>]

リディアのアティーンやアルバザードシエルトにおける概念からすると、聖とは神聖だけでなく、穢れなく正義であることも考慮した上での概念で、聖＝神＝アルテ・アルシャ（アルデ）とは限らない。当然、邪＝悪＝テームス・デームスというわけでもない。神にも悪い者がいるし、悪魔にも情けはある。アティーンで書かれる悪魔たちは人間や神の視点で初めて悪魔であり、彼らにその自覚はない。あるとすれば人間から見て自分らが悪であるという相対的な自覚のみである。だからこそミダンとヴェンシートは聖と共に邪を司る。邪が悪魔を即座に意味しない裏づけでもある

なお、ヴェンシート自身は邪悪を司るが、本人は邪悪ではない。ミダンも聖人というわけではない。司るがゆえに、ヴェンシートは邪悪に飲み込まれることがなく理性を保つことができ、ミダンは聖であることに徹せず、行動を束縛されない。このことから、聖邪はひとつの属性であり、どちらにも欠点はあるということが伺える。聖＝善とはなるかもしれないが、聖＝良と手放してはいえない。もちろん、邪に飲まれればそれは即座に悪だろうが、善にも飲まれ縛られると良くないという考えが受け取られる。飲まれずに善を操り、邪については飲まれずに退けるのが最もであるとされるのだろう

l4aJJa, Ja, la-, lccZ, l-a, e>c, >ccA

[Ve(4olo>]

全て敬称と卑称。名前か名字の後に付ける

尚、公的な場面で公的な話をしているときは相手との身分の差や関係がどうあれ絶対に敬称も卑称も愛称も使ってはならない。無礼である

l4aJJaは男に使う。様、殿などに当たる

目上に使う。関係が同等でも、尊重しなければならない相手にはつける。たとえば神話でルフェルはアルデスをl4aJJaで呼ぶ

Jaはl4aJJaの略形。l4aJJaより敬度が低い。近しい友人はふつう呼び捨てで呼ぶ。友人でなければl4aJJaをつける。したがって遠い友人が主に使う。また、近くても相手のほうが上だと感じていればJaをつけても良い

彼女が彼氏を呼ぶときに付けることがある。特に彼女がエティットで彼氏がエタットの

場合はその傾向にある

la-は女に使う。様、さんに当たる。男と違って敬度による違いがない。親しい間には付けないが、上だと思っていれば付ける。同等でも尊重しなければならない相手にもつける。たとえば神話でアルデスはルフエルをla-で呼ぶ

敬度の区別がない代わりに、女にはlccZがある。可愛いと思っている女や親しい女に付ける。主に子供相手に使うが、大人にも仕える。但し大人の場合は目上には仕えない。この点では女にも敬度の区別があるといえる

μ-aは名字に付ける。親しくない間柄に使う

l-cΛは名字にも名前にも付けられる。フルネームにプラスされることが多い。「～様」に当たる。役所、病院など、機関で名前の呼び出しを受けるときに良く使われる

e>cは卑称で、～の野郎などという意味。男女を問わない。卑称を使っているときは怒っているのも目上目下も一々問わない

>ccΛはe>cより軽い卑称で、冗談交じりに使う。実際に怒ってはいない。近しい間柄だとむしろ親近感を覚えさせることができる。日本語でいうと、ほくそ笑みながら「あいつめ」というときの「め」に近い

>c?-, >c?c

[Ve^4ol>]

>c?-は信心深い、敬虔な、信仰心のある。宗教心の高いさまを表わす。人や付属物を取る。<-Λ >c?-, lσμ^ >c?-など

>c?cは敬虔でない、信心が浅い、罰当たりな、信仰心のない。<-Λ >c?cで敬虔でない女。Jool >c?cは罰当たりな行為

ディアセルやメルセルを祝わないのは>c?c。神を頼らないのも>c?c。神を頼らないのは自分は神の力がなくてもやっていけると考えていることに繋がり、傲慢とも取られる

## >-lɿ, >clɿ

[Ve(ʧoɓ>)]

>-lɿは騒がしい。l-Vは音だけに限った「うるさい」だが、>-lɿは音だけではない。人だかりができてざわざわしている場合は>-lɿであるが、これは人の声だけでなく人が集まってわらわらと動いているさまも含んでいる。聴覚だけでなく視覚的にも騒々しく動いているさまを指す

人だかりは騒々しい。デモ隊なども騒々しい。基本的に音を出す物を取る。事でも良い。

-(ɿ) >-lɿなど

良悪はないが、比較的悪い意味で使う機会が多い

>clɿは沈静した。静まったという意味

## >oɿ, >eɿ

[Ve(ʧoɓ>)]

>oɿは接触した。くっついた。-ɸʷと違って連結したわけではなく、単に面と面が接しているさま。物理的な意味で使う。だが、スケジュールが別のスケジュールと隣接して間に休みがない場合も>oɿといえる。ゆえに時間的な意味もある

>eɿは離れた

## ʌ--ʷ, ʌ-cʷ

[Ve(ʧoɓ>)]

ʌ--ʷは親しい。人に対して互いに気が知れているさま。物事に対して精通しているさま。<el ʌ--ʷで精通している勉強。l-ɿだと玄人レベルに精通しているさまである。ʌoɿは単に慣れているだけで精通しているかどうかは不明

あと、その土地に明るいという意味もある

確かにʌ--ʷは精通だが、そんなにレベルが高くもない。親しいという意味なので頻繁に関わっているということの意味するだけである。当然その結果として精通しているだろうという推測でしかない

ʌ-cʷは人が疎遠。物事に不慣れ、疎遠。その物事に対して関わりが少ないさま

## Λ--Λ

[Ve(ʧolo>)]

念のため、一応。恐らくそうであろうことは分かっているが確認するさま。C-9J Λ--Λは念のための試験。C-6-e Λ--Λは一応調べる

日本語の「一応」は逃げ腰などところがある。調べる気が満々なのに「一応調べる」とか、思い切り頑張るべきところなのに恥ずかしがって「一応頑張る」などという。この用法はアルカにはない。分かっていたりできることが分かっているが確認のため行うという意味がそのまま現われる

<el-e Λ--Λは高得点を取れるのが分かっているが確認で勉強するとか、この問題は解けるはずだが確認として勉強するという意味である。日本語の「一応頑張る」は悪い点を取らないようにせいぜい頑張るという逃げ腰なニュアンスがあるが、アルカにはない

## Λ-7, Λc7

[Ve(ʧolo>)]

Λ-7は驚いた。びっくりした、ぎょっとした。予想外の事態に対して動揺すること。良い驚きと悪い驚きの区別はない。ゆっくりな驚きと急激な驚きの区別もない。驚きの総称である

予想外の事態に驚くのは人間として自然。恥ずかしくない。むしろ驚くべき事態に驚かないほうが強がりとして恥ずかしがられる。感情はコントロールすべきである。コントロールするとは抑制することだけを意味するのではない。出すべきところはきちんと出すのが正しいコントロールである

日本人はその点を勘違いしており、感情を抑制することばかり気にかける。日本人は犬が突然吠えてびっくりするとすぐバツが悪くなり、恥ずかしいと感じて舌打ちをしたり平静を装ったりする。「こいつ、びびったな」と思われるのが恥ずかしいからで、特に若い男に顕著である。たとえ周りに人がいなくても己で己を恥じる

ところがアルバザードではむしろ平静を装うほうが恥ずかしい。犬が突然吠えれば誰でも驚く。さも平然であるかの態度は明らかにわざとらしい。さも修羅場をくぐってきたかのような平然とした態度は強がりの現われで嘲笑的である

アルバザードではむしろ格好つけたい若い男は強がりをしていない証拠を見せたがり、いかに自然な様子で驚いてみせるかに専念する。自然な驚きを演出することがかえって格

好良いことや強さや男らしさに繋がる。過度に驚いたり平然を装うとかえって恥ずかしい

そういったしがらみのない女子は自分の驚きたいだけ驚く傾向にある。これは日本と変わらない。女子は犬が吠えれば「きゃっ」と素直にわめく。それで仕舞いである

Λcɔは平然。驚きのないさま。とりわけ、予想外の事態が起こったにも関わらず動揺しないさま。上記のとおり、良い意味とは限らない。むしろ嘲笑の的となることもある

## Λ-l, Λcl

[Veɕʧobɔ>]

Λ-lは安心。ほっとした。心配がなくなって気持ちが落ち着くさま。良い意味。抽具を取る。<-Λ Λ-lは安心した女。le> Λ-lは安心させる曲

Λclは不安。心配で心が落ち着かないさま。悪い意味

## Λ->ɔ, Λc>ɔ

[Veɕʧobɔ>]

Λ->ɔは態度が良い、感じが良い、丁寧な。人や付属物を取る。店員の態度などに使う。人のメトニミーとして店の態度も表わせる。-ɕe Λ->ɔは態度の良い店だが、これはメトニミーで、実際に態度が良いのは人

Λc>ɔは感じが悪い、生意気な、偉そうな、尊大な、態度が悪い、悪態、ムカつく、嫌な

Λ->ɔ, Λc>ɔはその人の喋り方、動き方、身なり、果てはより細かく目つきや顔つきなど、その人から受ける全体的なイメージによる総合的な判断である。総合的な判断で態度が良いとか悪いとかを決める

Λ->ɔは単に態度が良いだけではなく、動き方や喋り方や顔つきまで総合的に好ましいことである

Λc>ɔも全体的な判断である。てきぱきしてハイハイとよく聞くが、どこことなく冷淡そうな眼差しの店員や、どこことなく忙しそうで客を扱うというよりは客を捌く感じの店員がいるとする。彼は確かにɕ->ɔではある。<--Λでもある。だが、何となく気に食わない。そういうときにこそΛc>ɔである

## Λɔɔ, Λeɔ

[Veɕʧobɔ>]

Λολは相対的。他の何かと比較をしたさま。I- eC Λολ Ie-Cは彼は比較的賢い。日本語と違って少しという程度的な意味はない。純粹に誰かと比較した場合にしか使えない

Λeλは絶対的。何とも比べないさま

## ΛοC, ΛeC

[VeCʔolo>]

ΛοCは慣れた。経験が豊富ということよりもそれに多く関わってきたということに焦点を当てる。落ち着いて事を運べる精神状態を表わす

ΛeCは不慣れ。<-Λ ΛeC, I-ε ΛeCなど

## Λ-C, ΛcC, Λ-l-Λ, Λ-lcΛ

[VeCʔolo>]

Λ-Cは優しい。態度や言い方や処遇が思いやりあるさま。良い意味。甘やかすこととは違う。人と付属物を取る。<-Λ Λ-C, ʔa Λ-Cなど

ΛcCは厳しい。態度や言い方や処遇が冷酷であるさま。悪い意味。規制がきついか追求が厳しいという用法はない。それはΛ-lcΛである

Λ-lcΛは規制などが厳しいさまである

Λ-l-Λは規制が緩いさま。良悪なし

## o>o, o>e

[VeCʔolo>]

o>oは眠い。寝たい状態。<-Λ o>oは眠たそうな女。ʔa| o>oは眠くなるような話

o>eは眠くない。目が冴えている状態。ʔol- o>eは目が覚めるような事故。実際にある程度眠いと思っている状態からの復帰という場面でしか使えない。元々全く眠くもなかったのに衝撃的という意味で使われることはない

日本語は目が覚めるような美人という言い回しがあるが、これは別に眠くないときにも使える。だがアルカでは使えないということである

## oʔ



[Ve(ʎob)]

否定を表わす。名詞動詞だけでなく、形容詞、副詞、更には格詞にもつく。論理的な意味での否定を表わすが、論理学の否定とは異なる点がある

oは日常論理的な否定である。逆は必ずしも真ならずにもかかわらず、日常的には逆も真であることが前提で話されることが多い。これは逆だけでなく裏にもいえることである。ということはoが表わす否定は裏が真になることが前提とされる否定である

また、oはたびたび厳密な否定でもない。美人を否定すると論理的には醜女か普通かになる。だが日常的には美人でないは醜女を指すことが多い。尤も。はっきり醜女というよりは柔らかいが、普通という意味にはならないことが多い。つまりoは厳密な否定とは限らない

このように、oは日常的には論理的な否定と異なる点があるので注意。但し、同じoでも数学や論理学、或いは公的な場でのスピーチなどでは論理的な否定を意味することが多い

ʎ-, ʎc

[Ve(ʎob)]

ʎ-は右の。ʎcは左の。右にある、左にあるという意味。物理的な意味しかない

ʎ--ʎ, ʎ-cʎ

[Ve(ʎob)]

ʎ--ʎは良いところを見るさま。何かの長所を積極的に見ようとするさま。美德

ʎ-cʎは悪いところを見るさま。あら捜し。<-ʎ ʎ-cʎは欠点ばかり見る女。ʎ-e ʎ-cʎは欠点ばかり調べようとする調査。悪徳

ʎ-<, ʎc<, ʎ-<ʎ, ʎc<ʎ, ʎcʎ-, ʎcʎc

[Ve(ʎob)]

ʎ-<は鋭い。形だけを問う。感覚が鋭いのはʎ-<ʎ

ʎc<は鈍い

ʎcʎcが形に使う鋭さである。ʎcʎcは物の先端が鋭いさま。刃物や棒や筆記用具などに使

う

㊦㊧-は先端が丸まっているさま

㊦-I, ㊦-cl

[Ve㊦㊧㊧>]

㊦-Iは白い。白っぽい色の総称。雪や砂糖などの色

白は穢れないことの象徴。純白と同じ感覚。そこから無実という意味もある

る

また、白は最も色が無い色と考えられている。それゆえ透明に近い感覚で捉えられるものの、透明とは明確に区別される。透明を間違えて白とはいわない

白は最も色が無い色であるため、味気ないことの象徴でもある

善悪でいうなら善。白魔法も白のイメージなので、leV㊦-㊦は白い服を好む

㊦-clは黒。黒っぽい色の総称

黒は逆に穢れていることの象徴。有罪でもある

善悪でいうなら悪。黒魔法も黒のイメージなのでloV㊦-㊦は黒の服を好む

黒は色が無い色とは捉えられない

製品では黒は高級感を持つ。ここに邪悪なイメージはない。むしろ洗練されたイメージや知的なイメージを持つ

㊦-IV, ㊦-clV

[Ve㊦㊧㊧>]

㊦-IVは露骨な。ストレートに婉曲なしで表現するさま。ふつう良い意味。<-㊦ ㊦-IVはストレートに物を言う女。㊦a ㊦-IVはストレートな物言い

㊦-clVは婉曲、遠まわしな。ふつう悪い意味

㊦-l, ㊦-cl

[Ve㊦㊧㊧>]

㊦-lは善。㊦-clは悪。道徳的な良さと悪さを表わす。それ以外の観点での良悪は表わさない。人と付属物を取る。<-㊦ ㊦-l, ㊦-cl ㊦-lなど

## ㊦㊦, ㊦㊦

[Ve(ʧob>)]

㊦㊦は厚い。立体において、平べったいものの持つもう一つの辺（たとえば高さ）が長いさま。本などを取る。テーブルの台も厚い。つまり板も厚い。壁も厚い

完全に平べったくなくても良い。胸、背中、腹などは身体で唯一厚い部分である。尻は厚くない。大きい

雲なども厚い。これも完全に平べったくなくても良い

思いやりがあるという意味はない。物理的な意味にだけ使う

㊦㊦は薄い

## ㊦㊦, ㊦㊦

[Ve(ʧob>)]

㊦㊦は中を表わす。三次元体における内部である。箱のように境界面があるろうと、空間のように境界面がなかろうと構わない。境界面がなければ仮定すれば良い

また、絵に描いた丸の中も㊦㊦であるから2次元も表わせる

公園はフェンスがなければ境界はないが、出たところに道があることで自ずと境界が生まれている。道との境を境界面と仮定できる

また、内部が詰まっていようといなかろうと構わない。人体には血や内臓が詰まっているが、人体の中も㊦㊦と呼べる。逆に中が空虚でも同じく㊦㊦である

㊦㊦は外である。㊦㊦というからには中と呼ばれる空間が存在する。その空間にあらざる空間を全て㊦㊦という。あらゆる空間の集合を仮定したとき、㊦㊦がその中のある空間を占めるとする。すると㊦㊦は㊦㊦の補集合に当たる

㊦㊦もまた外見が詰まっていようと空虚だろうと関係ない

## ㊦㊦, ㊦㊦

[Ve(ʧob>)]

㊦㊦は過程を表わす。途中という意味である。語、節を取れる。抽具を取れる。行為的な意味を持つ語や節を取る。勉強や帰宅など、行為的な語はとりやすく、好きなどの非行為的な語はとりにくい

㊦㊦は過程に対する結果、事の顛末を指す。㊦㊦ ㊦㊦は勉強した結果の点数。どのよう

に勉強したかは不明

㊦㊧, ㊨㊩

[Ve(ʧob>)]

㊦㊧は予め。結果が分かる前や事態が訪れる前に既にしておくさま。㊧㊨ ㊦㊧は何かが起こる前の預めの外出。人も取れるが、解釈は文脈による。㊧㊩- ㊦㊧は予め行った

日本語は「この問題の答えをどう予想しますか」ということができる。これに対して稀に理屈屋が「その問題の答えは未知でなく既に用意されて回答集に載っている。なのに予想とはおかしい。推理や想像などと言うべき」というかもしれない

だがアルカではこのようには言わない。㊦㊧は事態が訪れる前だけでなく結果が分かる前も表わせるからである。その問題の答えが解けたのは遙か昔だろう。解けたという事態が訪れたのは遙か昔なので予想は確かにおかしい

だが、㊦㊧は結果が分かる前も表わせる。回答者にとって結果が分かる前も表わせる。なので質問者は回答者がまだ結果を知らないと思っているので㊦㊧を使うことができる

㊨㊩は後で。後から。結果が分かってから、或いは事が済んでから。㊨-㊩ ㊨㊩はアフターケア。今更遅い助けという悪い意味と、アフターケアという良い意味がある。どちらになるかは文脈次第

㊦㊧㊨, ㊦㊨㊩

[Ve(ʧob>)]

㊦㊧㊨は縁起が良い。幸運や幸福がこれから訪れるのではないかと期待させるようにするさま。抽具を取れる。㊨-㊨ ㊦㊧㊨, ㊧㊨ ㊦㊧㊨, -㊨ ㊦㊧㊨など

㊦㊨㊩は縁起が悪い。悪運や不幸がこれから訪れるのではないかと心配させるようなさま

㊦-㊧, ㊦㊨

[Ve(ʧob>)]

㊦-㊧は越えた。超越した。空間的な意味と時間的な意味がある。㊨-㊨ ㊦-㊧は何かを越えた女。0-㊨ ㊦-㊧は越えられた山。これは空間的

㊦-㊨㊨ ㊦-㊧は越えられた期限

㊦㊨㊩は内在。まだ内にあつて越えられていないさま

## μ-μ

[Ve(ʧob>)]

視点時間から見てそれより過去の事柄に対してかつて、一度。或いは視点時間から見てそれと同じ時間の事柄に対して一度、一旦、いったん、ひとたび、ひとたび、ひとまず、いっぺん、一回、一遍

μ- μ-μはかつての家。 μob- μ-μはかつての事件。 μcμ μ-μは一度のキス

## μ<, μe<

[Ve(ʧob>)]

μ<は意味が広い。人の興奮、性格の熱血さ、部屋や衣類などの乱れや乱雑などを表わす。つまり、整然としていないさまを指す。良悪どちらも

μe<はその逆。整然としているさま。良悪どちらも。人が冷静な、冷淡な、冷めた、クールな、落ち着いた、穏やかな。場所が整っている、荒れていない。海が穏やかである。などなど

## μ>, μe>

[Ve(ʧob>)]

μ>は成功。目的どおり上手く達成したさま。抽具を取る

μe>は失敗

## μ>, μe>

[Ve(ʧob>)]

μ>は急な。事態が前触れなく突然発生すること。進行速度が早いことではない。それはV-lである

μob- μ>は前触れもなく起こった事故。Vcl μ>は急性の病気。進行速度が早い病気はVc  
| V-l

μe>は緩やかな。慢性の。前触れを伴って徐々に事態が起こるさま

## μe>

[Veʿʧɔb>]

断続的な。オンアンドオフなさま。横断歩道の信号のように付いては消えるもの。また、電飾のように光ったり消えたりするもの

光だけではない。救急車のサイレンのように鳴ったり止んだりする音。止んだり降ったりふる雨。間欠泉。閉じたり開いたりする臉。全て $\mu\theta$ である

$\mu$ -,  $\mu\epsilon$

[Veʿʧɔb>]

$\mu$ -は「前に」という意味で、空間的、順序的、時間的な意味で使える。プロトタイプにあるのは空間的な前である。目の付いている方向である。また、人が並ぶとき、前のほうが後ろより先である。そこから順序的な意味が生まれた

そして順序的に先であるほうが行為を早く済ませられる。つまり、 $\epsilon$ が列に並んで切符を買ったのが $\theta$ 時だとすると、 $\epsilon$ の前に並んでいた $\theta$ は $\theta$ 時には切符を買える。 $\theta$ のほうが過去である。つまり、順序的に先なものは過去を表わす。よって前は過去という時間的な意味を持った

このように、 $\mu$ -は空間的な前と順序的な先と時間的な過去の意味を持つ

<- $\mu$   $\mu$ -は目の前にいる女、自分より順序が先な女、昔付き合った女などの意味

例外的な使い方だが、空間的な前は想像上の空間でも構わない。目の前に誰かがいるという前提で話せばそこに実際いなくともいることになるので $\mu$ -といえる。電話で話しているとき、相手が自分の前にいると仮定していれば前で良い。たとえその人の家が自分の後ろにあらうとも構わない

$\mu\epsilon$ は後ろである。空間的には後ろ、背中の方である。順序的には後、時間的には未来である

$\mu$ -- $\theta$ ,  $\mu$ - $\epsilon$

[Veʿʧɔb>]

$\mu$ -- $\theta$ は心に残る。印象が強い。印象に残る。抽具を取る。<- $\mu$   $\mu$ -- $\theta$ ,  $\mu$ - $\epsilon$   $\mu$ -- $\theta$ ,  $\mu\epsilon$   $\mu$ -- $\theta$ など、何でも取れる。 $\mu$ - $\mu$ -- $\theta$   $\mu$ -- $\theta$   $\mu$ -は印象に残るように彼を助けた

$\mu$ - $\epsilon$ は心に残らない。印象が薄い。忘れられやすい。何も心につっかかるものがないさま

ℳ-ℓ, ℳcl, ℳ->, ℳc>

[Ve(ʧob>)]

ℳ-ℓは新しい。バージョンが新しいさまである。一方、ℳ->は若い。年齢が若いさまである。新しい・若いとℳ-ℓ, ℳclは実はかなり違う

ℳ-ℓ, ℳ->はどちらも人も物も事も取れる。同じ名詞を修飾できる。ではこれらは何が違うか。ℳ-ℓはバージョンが新しいことである。型番や形式が新しいさま、変更されたり改定されたさまである。一方、ℳ->はできてからの日が浅いさまである

十年前の文書ファイルがあるとする。これを実に十年ぶりに書き換えた。するとこのファイルは日本語では新しいといえる。だがこの新しいは二つの意味を持ちうる

一つはこのファイルができてからまだ新しいという意味。だがこのファイルは十年前にできたと分かっているからこの解釈はありえない。もう一つはこのファイルが変更されてからまだ新しいという意味。こちらが正しい解釈である

だが、もし十年前と分かっていなかったら上の二つのどちらを選ぶか迷うだろう。日本語の新しいではその差を表わすことができない。しかしアルカは違う。両者は厳密に区別される。上における前者はℳ->で、後者はℳ-ℓである

このように、ℳ->はできてからの日の浅さを指す。そしてそれは人だけでなく物でも何でも良い。一方、ℳ-ℓは変更があつてからの日が浅いことを指す

新しい研究は<ol ℳ-ℓでも<ol ℳ->でもある。前者は研究そのものは昔からやっているのだが、その中で新興的な研究であることを指す。後者はその研究そのものが最近できたばかりという意味である

ℳcl, ℳc>は古い、老いたと訳すが、本質的な違いは上記のとおり

平生、人は変更しないのでℳ-ℓとは言わない。若いしかないからℳ->である。ところが今日から俺は新しく生まれ変わるなどの表現の場合、仮定の話の中で自分は変更を受けている。ゆえにℳ-ℓといえる

新しく考えるはoℳ-e ℳ-ℓである。今までの考えを変更するからである

ℳ-<∧, ℳc<∧

[Ve(ʧob>)]

ℳ-<∧は一度に、一気に、まとめて。同時に複数の物事に対処し、しかもそれらを一つの

まとまりとして処理するさま

eeし-e ヌ<Λ ヌ<εは服をまとめて洗濯する。たくさんの種類の服を一つのまとまりと考え、まとめて洗うこと

ㄱ-ㄹ ヌ<Λは一度に何教科もまとめて行う試験

ㄱ<Λは個別に。一人ひとり。一つずつ。し-し ㄱ<Λは個別指導

## ㄱ-ㄴ, ㄱ<ㄴ

[Ve(ʔolo>]

ㄱ-ㄴは平らな。面に凹凸や高低のないさま。eleΛ ㄱ-ㄴなど

水平面と平行であるという意味はない。「そこは坂じゃなくて平らだよ」というとき、平らには凹凸がないことでなく、坂でないことを表わしている。水平面と平行であることを表わしている。だがこの用法はない

高低のあるさまは別の例で使う。坂には使えない。たとえばベッドにはかけ布団が敷いてある。綺麗に敷いていけば布団は平らな面で、ㄱ-ㄴである。だが朝起きてそのまま無造作にベッドから降りると布団は乱雑した形になる。一部が膨らんで盛り上がり一部が下がった形である。これを高低差があるということでㄱ<ㄴという

その面の中で高低差があるときにㄱ<ㄴという。坂の場合、坂自体に隆起があればㄱ<ㄴといえるが、坂の頂上と坂の下との高低差は表わせない

ㄹΛ ㄱ<ㄴは凹凸のあるでこぼこした道で、山道や砂利道などに多い。砂浜もそうになっている可能性があるし、砂漠は隆起が多いのでㄱ<ㄴである

## ㄱ-ㄷ, ㄱ<ㄷ, ㄴ<ㄷ, ㄴ<ㄸ

[Ve(ʔolo>]

順に近い過去、近い未来、遠い過去、遠い未来を表わす。訳は順にさっき、あとで、こないだ、いつか

ㄴ<ㄷ- ㄱ-ㄷはさきほどの事故

## ㄱ-ㄴ, ㄱ<ㄴ

[Ve(ʔolo>]

ㄱ-ㄴは公認された。はっきり明言して許可されたさま



JcLは暗黙の。明言されてはいないうちに許可されたもの

leA, leAは許可だけを意味しない。暗黙の決まりは許可ではないのでleA。つまりoZ leA。JcLはleA JcLのように使う

## J-A, JcA

[Ve'Yob>]

J-Aは通時的。ずっと、一時的でない、通して、通じて、本当の、本物の、正規の、一生の、生涯のなどの意味を持つ

「正規の」は社員などを取る。パートのようにすぐ止めるものでないという意味。「本当の」「本物の」も通時的で変わらないという意味において使う。L-A, <coの意味はない

<-J J-Aは生涯の仕事

JcAは一時的な、一過性の、仮の、一時の、暫定的な、当面の。-A JcAは当面の計画。Vcl JcAは一過性の病気。I-e-A JcAは仮雇用の労働者や、ヘルパーですぐいなくなる人

## J-J, JcJ

[Ve'Yob>]

J-Jは順序が順であるさま。たとえば自然数でいうなら1, 2, 3, 4の順をJ-Jという。副詞は順番にという意味。co>- J-J <el>-はいくつかの学校を順番に回った

JcJは順序が逆であるさま。4, 3, 2, 1という順である。逆順にという意味である

時計でJcJというと逆周りのことで、五時の次が四時になるものである。>el JcJは逆回転する時計

人も取れるが何について順や逆であるかは不明

## J-C, JcC, A-AC, AcAC

[Ve'Yob>]

J-Cは公の。JcCは私の。A-ACはプライベートな。AcACは公衆の。つまりこれらは公私である。n対が互いに逆意になっているが、意味も良く似ている。しかもこれらは--A(社会), -cA(個人)にも似ている。では何が違うか

--Aと-cAは社会と個人の対立。J-CとJcCは国と個人の対立。A-ACとAcACは公と個人の対立である

J-Cは国で、政府である。JcCはそれ以外なので一人ひとりの個人もそうだし、企業のよ  
うな法人もそうである。人の集団もJcCである

AcACは公で、公衆である。一人ひとりの個人以外という意味である。A-ACが個人である。  
AcACは個人と対立する公衆である。社会というまとまった組織との対立ではない。プライ  
ベートに対するパブリックである

人は公的な面と私的な面を持つ。会社で会議をしているときや、記者会見をしていると  
きなどはAcACである。人間はA-AC, AcACにはなれるが、J-Cと--Aにはなれない。人間はA-AC,  
AcACの両面性を持つが、J-Cは国なのでなれないし、--Aも社会なのでなれない

A-AC, AcACは人間のある一面を表わし、人間はそのどちらにもなれる。だがJ-C, --Aはそ  
うはいかない

私的な用事はZ-A) A-AC。公的な用事はZ-A) AcAC。Z-A) J-Cにすると国の用事。国が何  
か必要としていることである。Z-A) --Aは社会が必要としている何かの用である

## Jo>, Je>

[Ve^4olo>]

Jo>は複雑。単純な事柄が複数絡み合っているさま。一つひとつは単純なことだが、組み  
合わさると分かりづらくなる。それを表わしたのがJo>。体系や仕組みや問題などに使う

7Ao Jo>は複雑な問題で、数学のような問題。単純な公式や解法から成るが、それらがい  
くつも絡み合っているのですぐには解けないさま。だから必ずしも難しいとは限らない。  
ただ面倒なだけもある。ゆえにl-f, \eθとは異なる

また、心についても表わせる。A- Jo>は怒りや喜びなど、単純な感情が絡み合っている  
感情である。いくつもの感情が絡み合っていてそれが何であるとは分かりがたいさま

髪型が複雑なものJo>。奇抜な髪型はJo>だが、三つ編も人によってはJo>に見えるかも  
しれない。ストレートに伸ばした髪はただ切っただけでいじったりしない髪形は必ずJo>で  
はない

化粧品にも使える。とにかく単純なものをいくつも絡ませてすぐには単純なもの集まり  
に還元できないさまを表わせれば化粧品でも味でも料理でも匂いでも何でも良い。香水などは  
いくつもの匂いを混ぜているのでJo>である

Je>は反対で、単純

## JeΛo, JeΛe

[Veʃʒo>]

JeΛoは気長な。長く待つことができたり、堪忍袋の緒が長いこと。人と付属物を取る。  
く-Λ JeΛo, V-ʃ JeΛoなど。美德だがあんまりできずぎてもグズとして悪徳

JeΛeは短気な。待つのが嫌いで気が短くすぐ怒るさま。アルバザードの人間はJeΛeの傾向がある。多少のJeΛeは人を行動的にするが、基本的には悪徳

JeΛoとJeΛeの間に収まるようにコントロールせねばならない

## Joʒ, Jeʒ, h--ʃ, h-cʃ

[Veʃʒo>]

Joʒ, h--ʃは高い。Jeʒ, h-cʃは低い。いずれも空間的な意味しかない。ではこれらは何が違うか

Joʒは基準面に在る物の上方向への距離が大きい。基準面は地面などの水平面が多いが、垂直面でも良い。塔、背丈、ビル、木などに使う。鼻は突き出ているので0-し

h--ʃは基準面からそのものにいたるまでの上方向の距離が大きい。つまり、上方向専用の遠いである。上方向に遠いさまを表わす。雲、窓、飛行機、電気のかさなどを取る

もしこれがなかったらどうなるか。Joʒといったとき、それが地面に生えているのか、遠く上を飛んでいるのか分からない。もし後者をcʃΛにしたら、飛行機は遠いものになってしまうが、遠いとも少し違う気がする。遠いはふつう上方向以外を表わすからである。という事は飛行機はまだ高いに近い気がする。となるとcʃΛでもJoʒでもダメになる。さて、どうしようと考えたときに使えるのがこのh--ʃである

日本語の高いはJoʒでもh--ʃでもある。窓などを取ったときに迷うこととなる。(e>ʒ Joʒという場合、窓が地面に接していない限り基準面は下側の窓枠になる。この窓枠から上の窓枠までの距離が大きい窓を(e>ʒ Joʒという。縦に長い窓である

これを(e>ʒ h--ʃとすると、基準面は地面になる。地面からの距離が大きいことにある。つまり天井に近いところにある手の届かないような高い窓のことである

いってみればJoʒはそのものその物の長さが高いことで、長いに近い。長いと違うのは主に片一方だけが固定されている点と、主に片一方が地面に接していることである

一方、h--ʃはその物が地面などの基準面から見てどれだけ遠いところにあるかを表わしている。ゆえに遠いに近い。ただ、上方向と決められている点で遠いとは異なる

ところで、h--cもJoM同様、地面以外を基準面を取れる。たとえば天井近くの高いところの壁に時計をかける。これは>el h--cであるが、それは床から見た話である。もし時計の下に高い本棚を置いたらどうなるか。地面から見ればいまだにh--cであるが、棚の天井から見ればh--cではない。こういう場合、>el h-c c(c)eΛ lec)cfという  
さて、h-cは今見たとおり低いである。JeMも低い。用法は上と同じ

## JoΛ, Jel

[Ve'Yob>]

JoΛは茶飯事になじみの、おなじみの、顔なじみの、固定客の、いつもの、お決まりの(冗談など)、ルーティン、日常の。抽具を取る。c>-Λ JoΛ, l-ε JoΛ, JoJoΛ JoΛなど。-c>αΛ JoΛは日用品という意味もある

良くも悪くもある。良ければ馴染みの、悪ければ陳腐な

Jelは逆で、常連でなく一見な

## JoΛ, JeΛ

[Ve'Yob>]

JoΛは主観。JeΛは客観。但しアルバザードの考え方からいってJeΛは主観的客観であるのがふつう。主観的客観とは客観といっても所詮多数の主観を集めて平均化したものに過ぎないという考え。人間は客観的にはなりきれない

科学的に求めたデータでさえ個々の観測機は微分して見れば異なる値を出すし、アナログ機器なら観測者の視力によっても結果が変わる。どうも客観的にはなりきれない

数学は公理から始まる取り決めなので客観性が最も高い部類である。これは主観的客観ではなく極めて客観に近い

こうしてみると殆どは主観的客観である。ゆえにJoΛが事実上表わすのは主観的客観である

抽具を取る。<-Λ JoΛ, JoJoΛ JoΛ, lec JoΛなど

## Jo>- , Jo>c

[Ve'Yob>]

Jo>-は十字の形。Zo> Jo>-は十字架の形にされた木のこと。JoΛ Jo>-は十字路。形の意

味しかない

Jo>cは罰点。×である。十字を四十五度傾けた形である。Zo> Jo>-やoA Jo>-は少し首を捻ればすぐJo>cになる

## Jo-, Joc

[Ve^4olo>]

Jo-, Jocはそのような、このような、あのような。Jo-は近で、Jocは遠である。はっきりそれこれあれと指示しない曖昧な指示である。Caははっきりこれと指示しているが、Jo-は遠巻きに曖昧に指示している

このことは-l, JoMの関係と似ている。-lは終点だが、JoMは終点へ向かう方向である

ではどういったときにCaでなくJo-にするか。l-e Ca, <-A laとl-e Jo-, <-A Jo-は何が違うか。Jol- Jo-はJol- Caと違うのか

このJo-ははっきり示したくない、直接示したくない、遠巻きにして触れたくないという気持ちを表わしている。人間がこのような気持ちになるときは、そのものに対して恐れや嫌悪や畏怖などの近寄りたいたいと思わせる感情を抱いているときである

Jol- Jo-は凄惨な事件であるために人は恐怖し、直に関わりたくないという意識を起こさせる。ゆえにCaでなくJo-が使われる

また、そういったマイナスの感情以外にJo-が表わすものがある。これは-l, JoMの対立に似ている。Caははっきり指示するが、Jo-ははっきり指示しないのでそのものだけでなく、そのものの周辺も含む。つまりl-e Caといえばその仕事だけを表わすが、l-e Jo-はその仕事及びそれに類似した仕事を表わす

このように、指示を曖昧にすることによってそのものだけでなくその周辺のものも含むことができる。こちらもJo-の用法として重要である

le>oといわれたときに-A JcA-c Jo Caといえば私はその言葉が嫌いという意味である。それ以外の似た悪口も嫌いであることをいうならJo-にすれば良い

ただ、le>oが嫌いな時点でCeoloなども嫌いだろうことは十分に想像が付くため、ふつうJo-とは言わずにCaで済みます。曖昧は嫌われるからである。もしそれでも敢えてJo-にしているなら、それは先に述べたその言葉への嫌悪の現われである。類似を表わす用法とは考えにくい

## Joh, Jeh

[Ve(ʧob>)]

Johは徹底的な。程度が高く、最後までやりとおすこと。人でなくても良い。抽具を取る。

<-Λ Joh, l-ε Joh。ʃeeZe Johは徹底的に町を破壊しつくす竜巻

Jehは妥協した。詰めの甘いさま

## JoMo, JoMe

[Ve(ʧob>)]

JoMoは革新的な。それまでの体系を打ち壊すような。抽具を取る。<-Λ JoMo, >e- JoMo,

μ-Λ JoMo。良悪なし

JoMeは保守的な。良悪なし

## JoΛ, JoεΛ

[Ve(ʧob>)]

JoΛは反省した。自分が悪かったと認めて改善しようとするさま。人と付属物を取る

JoεΛは反省しない、悪びれない。同じ過ちを繰り返すので極めて悪徳

## ʃ-ΛJ, ʃcΛJ

[Ve(ʧob>)]

ʃ-ΛJは美德な。道徳の面から見て良いこと。人と付属物取る。<-Λ ʃ-ΛJ, Jool ʃ-ΛJなど

ʃcΛJは悪徳。JoΛに添わないこと。非難されるべき悪

## ʃ-Λʃ

[Ve(ʧob>)]

ジグザグ。物理的な意味しかない。特に空間的な意味が多い。道、軌跡、線などを主に取る。物理的な例としてはのこぎりの刃の部分がある

## ʃ-ʃ>, ʃcʃ>

[Ve(ʧob>)]

ʃ-ʃ>は筋道のたった、筋道の通った。論理や考えなどをとる。また、そういう考えの人

も取る

ㄱㄷ>は支離滅裂な。ㄱㅏ ㄱㄷ>は支離滅裂な言葉

ㄱ-ㄷㅏ, ㄱㄷㅏ

[Veㄱㅏㅏ>]

ㄱ-ㄷㅏは態度が真剣なさま。ㄱ-ㅏ ㄱ-ㄷㅏ, heㄱ ㄱ-ㄷㅏなど。手紙の場合は内容が真剣なさま。ふつう美德

ㄱㄷㅏは態度がいい加減なさま。ふつう悪徳。ただ、冗談っぽいという程度の意味もあり、これだとそんなに悪くはない。ㄱㅏ ㄱㄷㅏだと悪いか悪くはないかのどちらか。文脈で判断する。大抵は悪い

ㄱ-ㅏ, ㄱㅏ

[Veㄱㅏㅏ>]

ㄱ-ㅏは大きい。空間的な意味しかない。更に、三次元体にしか使わない  
ある三次元空間を占める割合が甚だしいさま

形は問わない。人、箱、球、良く分からないぐにゃぐにゃしたゼリー状の形などなど、何でも良い

中が詰まっているかも問わない。鉄の塊でも水槽でも良い

境界線がなくても良い。公園でも宇宙でも認知者が勝手に空に境界線を仮定するので、物理的な境界線は必要ない

ㄱ-ㅏは絶対に甚だしいという意味にならない。もの凄いか非常にとか偉大なといった意味は全くない。空間的な意味しかないので物理的な存在以外には使えない。物理的なら形がなくても良く、空気も大きいといえる。その代わり非物理的なことが絶対に指せない

よって、責任が大きいは不可。愛情、憎しみ、不安、ショックなども不可。意味、メリットなども不可。態度や話も大きくなれない

また、数の大きさも表わせない。数が大きいのはㄱㅏである。数がいえないということは比率もいえない。大きい比率も不可

よって「年が大きい方が」という言い方も不可。「僕が大きくなったら」も不可。年齢は表わせない。もしこれが「僕の身長が大きくなったら」だとしたらㄱ-ㅏでなくㄱㅏである。

いずれの解釈にせよ不可

もつとも、人も取ることができる。偉大なという意味はない。背が高く横幅もある人である。横幅が広いは二つある。一つは太った人。もう一つは逞しい筋肉質な人

上述のとおり、偉大という意味もないので器が大きい、あの人は人間が大きいという用法も皆無

副詞にしても空間的な大きさしかない。>cl>-e (-J)は空間をたくさん利用して踊るさま。手を大きく広げたり、或いは動き回って踊るさま

副詞にしたときも抽象的な意味はなく、大きく踏み出すのように強さや長さを表わすことはできない

尚、(cJ)は小さい。同じく抽象的な意味はない。音が小さいとか、些細な出来事とか、幼いとか、萎縮したといった意味はない。ささやかで度量が小さく規模の小さいさまも表わせない

逆に、出先で知人にあったときに日本語では「狭い世界ですね」というが、この言い方はアルカにもある。-(ol-J e( (cJ 7o)という。やや比喩的で、ふつうは偶然ですねという。見ればわかるように、アルカでは狭いではなく小さいである。(cJ)を使う

(eo>, (ee>

[Ve(4ob>]

(eo>は永遠の。終わりが無いさま。<-l (eo>は永遠に生きる女、或いは何らかの点で永遠な女。<-l (eo>は永遠に終わらない仕事。-l (eo>は永遠に終わらない数。無理数や循環小数に当たる

(ee>はいつか終わりが来るさま

(eoJ, (eeJ

[Ve(4ob>]

(eoJは遠慮がち。人と付属物を取る。やりすぎは悪徳、少しなら美德

(eeJはあつかましい、無遠慮な。悪徳

(o(, (e(

[Ve(4ob>]



ㄱㄴは有縁を表わす。関係のあるという意味。何と関係あるかは更にまたㄱㄴで表わす。  
ㄱ-ㄴ ㄱㄴ ㄱㄴㄹ ㄱㄴㄹ-は事故に関係ある女。単純にㄱ-ㄴ ㄱㄴㄹ ㄱㄴㄹ-でもほぼ同じ  
ㄹㄴは無縁。関係ないさま

## V-ㄱ, Vㄴ

[Ve(ㄱㄴㄹ)]

V-ㄱは全体。部分と全体の関係における全体。抽具を取る。固体全体は勿論、境界が決まれば液体にも気体にも使える。無論、人体にも使える

抽象にも使えるので、規則という集合の全体をも取れる。十の規則があったとすると、  
ㄱㄴ V-ㄱは十の規則全体を表わす

Vㄴは部分

## V-ㄴ, V-e

[Ve(ㄴㄹ)]

V-ㄴは「より～」を表わす。副詞が多い。ㄱ-ㄴ ㄴㄹ V-ㄴはより背の高い女。背のことだと分かっていればㄱ-ㄴ V-ㄴで十分。この場合は形容詞であるとも形容詞を省略した副詞であるともいえる

ㄹ-ㄴㄹ-e V-ㄴはもっと殴る。ㄴ-ㄹ-e V-ㄴは今着ているものより更に重ね着する

V-ㄴは現状から比べてより程度が上であるさまを指す。現状と比べてなので、結果として上になるかどうかは分からない

百点満点のテストで零点から一点になった場合、結果としては-eだが、ましにはなっているので-ㄴ V-ㄴという。「より良い」である。ただ、より良いといっても「良い」とは別物であるということをおぼえてはならない

V-eは逆で、より～でない。～の部分は文脈で判断したり、形容詞をつけてV-eを副詞にしたりして判断する。つまり、ㄱ-ㄴ V-eは文脈で判断し、形容詞をつけるならㄱ-ㄴ ㄴㄹ V-eなどとする

尚、ㄴㄹ V-eとㄹㄴ V-ㄴは同じことを指すが、ニュアンスが異なる。ㄴㄹ V-eは腐っても鯛のように、腐っても高い気がする。ㄹㄴ V-ㄴは何か元々ある程度低いニュアンスを受ける

また、高低にかかわらず、高いことを話題にしていれば前者を使い、低いことを話題にしていれば後者を使う

## V-γ, Vcγ

[Ve(ʧob>)]

V-γは自然。天然であること。人工の反対ではなく、人が手なずけていないという意味。手なずけた、飼いならしたの反対である。人工の反対だと作っていないという意味だが、V-γは飼いならしていない、支配していないというニュアンス

動物に使うと野生と訳す。植物は天然の。人間が育てていないで自生しているさま

人にも使える。人に従って飼いならされて生きていない孤高なさま。或いは社会に従わない凶暴なさま

Vcγは手なずけたさま。人工と近くもあるがlcγとは違う。また、森などの自然が文明化された状態も指す。動物の場合、家畜化した動物や、愛玩化した動物を指す

植物はJ(e) lcγ (人工) と同J(e) Vcγともいえる。前者は品種改良などをして人工的に作った野菜という意味。後者は自生させるのではなく畑を作ってそこで育てるという意味。人間に飼いならされた野菜ということである

品種改良した野菜を畑に植えている場合、品種改良していることか畑で育てていることかのどちらか、或いはどちらにも焦点を当てれば良い

## V-λ-, V-λc

[Ve(ʧob>)]

V-λ-は自信がある、強気な、堂々とした、堂々と、勝気な。人と付属物を取る。<-λ V-λ-, ʧa V-λ-など

ʧobは態度や行動が正々堂々としているさまで、V-λ-は自信があるさま。ʧobは言い方にたとえ自信がなくとも行動が卑怯でなく正々堂々としていれば使える。だがそのときV-λ-は使えない

逆にただ偉そうに、できると勘違いして自信たっぷり卑怯なことを働くこともできる

V-λcは自信がない、弱気な。ʧcλとは違う。あれは内気。これは弱気

## V-λo, V-λe

[Ve(ʧob>)]

V-λoは意欲がある、やる気がある。努力しよう、何かをしようという意思のあるさま。

人と付属物を取る

V-ʌeは意欲のない、やる気のないさま

V-ʌ, Vcʌ

[Veʕʔɔɔɔ>]

V-ʌは苦しい。Vcʌは痛いであるから、V-ʌは肉体的な苦しさを表わす。肉体的な苦しきだけである。精神的な苦しいはʔcʌである

痛いには体に損傷を受けた場合の感覚で、主に体の外部に生じる。名詞は傷という意味なので傷を受けたときの感覚である。切り傷刺し傷など、何でも良いが、傷ができたときの燃えて刺されるような鋭い痛みのことである

外部がメインだが、内部も痛いことがある。内臓も刺されれば痛い。内臓疾患や病気などで傷のようなものができたときも痛いと感じる。たとえば胃腸炎で胃に炎症が起きれば胃酸のせいで炎症部位が刺激され、熱い針でチクチク刺されたような痛みを感じる

また、アキレス腱が切れても痛い。筋肉痛でも痛い。これも内部が切れているから内部の傷と見てVcʌである。鼻のかみすぎで鼻が炎症を起こし、触れると鼻の欠陥が脈打つようにドクドクいい、しかもそこに熱が流れるようにジンジンする場合も痛い。タンスに小指をぶつけても痛い。目に猫の毛が入ってまばたきしても痛い。骨が折れても痛い。骨のひびが傷と見なされるからである

V-ʌは傷やそれに準ずるもので刺されたような痛み以外の苦しみを表わす。内臓に感じる感覚で、外部には感じない。一番感じやすいのは腹や胸である

便秘や下痢で腹をかき回されるようなときは苦しい。肺や心臓が悪くて呼吸がままならないときも苦しい。走りすぎたときも苦しい。階段を昇りすぎても苦しい。水の中に潜って息がなくなっても苦しい。埃や煙が多くて息がすえなくても苦しい

また、痛いと感じるが同時に来ることもある。心臓にズキンと痛みが来て、糸が張り詰めたような感覚がするときがある。息を吸おうとすると糸が余計に張って切れそうになる。切れたら痛そうなので息を弱く吸う。当然呼吸も苦しくなる。この場合、痛いと感じるが一度に来ているのでV-ʌ/Vcʌである

Vɔʌ, Veʌ

[Veʕʔɔɔɔ>]

Voルは大切な。大切にした、大事にした、深刻な、重大な、真剣な、重症な、重度の、シリアスな。人、物、事に対して重要であるとか大切なという意味。<-ル Voル, <-ル Voル, -ル- Voルなど

日本語で大切というと良い意味で、守ろう可愛がろうというイメージがある。だが、Volしはもっと意味が広い。重要人物に使うときの重要という意味もある。重要人物は別に可愛くないので日本語の「大切な」とはニュアンスが違う

また、Ja Voルは重要な言葉だが、重要な言葉をいうときには真剣なことが多いのでときには真剣と訳す。シリアスでも良い。Vcl Voルは大切な病気ではない。訳すときは重大な病気ということで、深刻とか重度のなどと訳す

このように、Voルは大切より広いし、更に重要よりも広い。意味の広い語である

Veルは全然重要でない、どうでもよい、どうでもいい、取るにたらない、些細な、粗末にして良い、下らない、くだらない

## Vo>ル, Ve>ル

[Ve(ʎo>ル)]

勇敢な、と、臆病な。前者は褒め言葉だが後者は貶し。だが、勇敢も過ぎれば無謀になり、臆病も場合によっては君子になる。それは-o, -eなどといって表わす

## Voル, Veル

[Ve(ʎoル)]

Voルは複数。Veルは単数

これらは数えられる物事にだけ付く。抽具どちらでも良いが、その代わり数えられないといけない。el Voルはふつう不可能。だが、容器に入っていれば良い。また、化学で水分子が複数ある場合もel Voルといえる。この水は分子単位で数えるからである

## Voル, Veル

[Ve(ʎoル)]

Voルは意図的に、わざと。Joル- Voルはわざと起こした事故。意図的な事故。Je(ʎ Voルは意図的な殺人。殺そうと思って殺した場合。未必の故意は「死ぬなら死んでもいいや」と考えているわけだから完全に意図的とはいえない。かといって無意図でもない。Voル oルなど

と言い表すことが多い

副詞だと「わざと」。 $\text{e-oJ-}$   $\text{Vo}$ はわざとなぐった。本当はそうすべきでないのに敢えて  
という場合は $\text{Vo}$ でなく $\text{ce}$ になる

$\text{Ve}$ は無意図で、無意識に。ふと、ついとも訳せる

## $\text{Vc-}$

[ $\text{Ve}(\text{yo}b\text{>})$ ]

概数を表わす。副詞では使わない。数字の直後に来る。1000  $\text{Vc-}$ は約千。千人の生徒は  
1000  $\text{<el-}\Lambda$ 。では、千人ほどの生徒の場合はどうかというとな1000  $\text{Vc-}$   $\text{<el-}\Lambda$ である。 $\text{Vc-}$ は  
数に直接かかる

基数だけでなく序数にも使える。 $\text{<-}\Lambda$  10  $\text{Vc-}$ は十番くらいの生徒。九番かも十一番かも  
わからない

## $\text{V->}, \text{Vc}>$

[ $\text{Ve}(\text{yo}b\text{>})$ ]

$\text{V->}$ は暴れているさま。暴れた、乱暴な、獰猛な、凶暴な、暴力的な、野蛮な。人や動物  
などに使う。台風など、自然には使わない。その代わり人と付属物は取れるので、 $\text{Jo}\text{el-}$   $\text{V->}$   
 $\text{>}$ などは可能

$\text{Vc}>$ は大人しいさま。穏やか、しとやか

## $\text{V-J}, \text{VcJ}$

[ $\text{Ve}(\text{yo}b\text{>})$ ]

$\text{V-J}$ は争っている、抗争中の、仲が悪い、戦っている。人と付属物を取る

$\text{VcJ}$ は平和な、仲が良い

## $\text{Vo}\text{?}, \text{Ve}\text{?}$

[ $\text{Ve}(\text{yo}b\text{>})$ ]

$\text{Vo}\text{?}$ は忙しい、せわしい。することに負われて暇がないさま。人と付属物を取る。 $\text{<-}\Lambda$   $\text{Vo}$   
 $\text{?}, \text{I-e}$   $\text{Vo}\text{?}$ など

情勢が差し迫って落ち着かないという意味はない。将棋の局面がここで急に忙しくなっ

てきたという場合は使えない

忙しいは日本語では美德や言い訳として良く使われる。まるで忙しいと言わなければ働いてなく悪であるかのような捉え方である。ああ忙しいとか、すみません忙しいんでなどという日本人は多い

日本人はなにかにつけて忙しいを口にする民族だが、アルバザードではまずない。なぜなら忙しいは悪徳だからである。忙しく生活することは余裕をなくす。これはアルティスが悪だと述べている

だからアルバザードでは忙しいはあまり聞かれない。良い意味では勿論、断りの言い訳として使われることもまずない。忙しいと断る場合は本当に真剣に誰が見てもあからさまに忙しい場合にしかありえない。ふつうは $\text{de}\Lambda\text{C}, -\Lambda \text{ l-l-al } \text{C}$ という。忙しいですと断る用法はない

逆に $\text{Ve}$ は暇な。することがなくて手持ち無沙汰。これは日本と同じくふつう悪徳。時間は貴重だから何もしないでいることは悪徳。尚、休息は何もしないことではない。休息は重要な行為である。ゆえに休息しているときは暇だとは絶対に言わない。これは日本人とは若干異なるかもしれない

## $\text{V}\text{o}\text{C}, \text{V}\text{e}\text{C}$

[ $\text{Ve}^{\text{C}}\text{ob}$ ]

$\text{V}\text{o}\text{C}$ は先天的な。 $\text{V}\text{e}\text{C}$ は後天的な。能力などの抽象を取ることが多い。 $\text{le-C } \text{V}\text{o}\text{C}$ など。人は取らない。先天的な人といわれても意味がわからない。但し、文脈から仮にわかる状況があれば修飾できる

たとえば鳥が人間に変身できるという物語を考えよう。彼は鳥から人間に変わった。この場合、彼は後天的な人間である。そうすると $\text{c}\Lambda \text{ V}\text{e}\text{C}$ といえる。逆にふつうの人間は彼と比べると先天的な人間であるから $\text{V}\text{o}\text{C}$ である

## $\text{V}\text{o}\text{>}, \text{V}\text{e}\text{>}$

[ $\text{Ve}^{\text{C}}\text{ob}$ ]

$\text{V}\text{o}\text{>}$ は怖がらない。勇敢ではなく、怖がっていない状態を指す

$\text{V}\text{e}\text{>}$ は怖がった、恐れた

人と付属物を取る

## 0-㉓, 0c㉓

[Ve(ʧob>)]

0-㉓は利き。いくつか、特に二つあるうち、メインで使われるものを指す。より上手に得意に扱うことができるほうを指す。利き腕などに使う

(-㉓) 0-㉓は利き腕、I-J 0-㉓は利き手。日本語で利き腕というときはI-J 0-㉓のほうが多い  
0c㉓は利かないほうで、0-㉓の反対

## 0-し, 0cし

[Ve(ʧob>)]

0-しは突き出た、飛び出た。空間的な意味しかない。面から何か突き出ているさま。崖の断面から飛び出た木や岩は0-し。鼻は顔から突き出ているので0-し

0cしは凹み。面の一部が凹んでいるさま。缶を握れば缶は凹むが、これを0cしという。筒のように穴があいたものは駄目。井戸のように底があっても穴は穴なので不可。ある面の一部が凹んでいるときしか使わない

いってみればへそは腹に対して0cしである。逆にでべそは0-しである。出っ歯も0-し

## し-㉔, しc㉔

[Ve(ʧob>)]

し-㉔は現実の、実在する。しc㉔は虚構の、架空の、非現実の、実在しない。存在に関する語であるから存在しうるものに使う。人や物は勿論、考え方などの抽象も取れる。㉓㉓㉓ - -㉓ しc㉔は「そんな考えは実在しなかった」である。つまり新発見だと言っている

## し-<I, しc<I

[Ve(ʧob>)]

し-<Iは余裕な。余裕のある。精神的な余裕も時間的な余裕も表わす。<-㉓ し-<Iは何かを余裕でこなす女。I-㉔ し-<Iは時間的に余裕な仕事。簡単という意味よりも精神的時間的に余裕があるという点に焦点が当たる。「こんなの余裕余裕」は簡単と訳す

しc<Iはギリギリ、余裕がない、間一髪、どうにか、どうにか頑張っ、かろうじて、何とか

## し-h, しch

[Ve(ʧoɔb>]

し-hは有罪。しchは無罪。人と付属物を取る。<-h し-h, ʃoɔɔ し-h

## し--ʧ, し-cʧ

[Ve(ʧoɔb>]

し--ʧは有標の。し-cʧは無標の。学術用語だが、広く一般に認知された用語なので日常的にも使える。抽具を取る

## し-ʃ, ʃcʃ

[Ve(ʧoɔb>]

シャリシャリ。歯ごたえがあって瑞々しく、それでいてどろどろしていないさま。レタスなど食感。食感に使う。触った感じにも使えるので触感でもある。砂のシャリシャリではない。ポテトチップスはむしろパリパリなのでʃcʃ

ʃcʃはパリパリ。カリカリでクリスピーなさま

## し-ʃ, しcʃ

[Ve(ʧoɔb>]

し-ʃはどのようにでもできた、何だろうとできた、仕様がなかった、なんとでもできた、なんとでもなった、どのようにでもなった、何とかになった。何とでも対処しようのあるさま

抽具を取る。<-h し-ʃ, ɪ-ɛ し-ʃ, ʧeʃ し-ʃなど。h-d し-ʃなどになると文脈で解釈する。たとえば何と書いてもそれなりに書ける字など

しcʃはどうしようもない、仕様がなくて、どうにもならない、対処できない、うだつがあがらない、やりくりできない、上手くいかない。何とも対処しがたいさま

日本語で「しょうがない」「もうだめだ」「どうしようもない」「どうにもならない」などというとき、しcʃという。単なる諦めの意味もあるが、客観的に見てどうにもならない冷静な分析をした上での諦めもある

尚、どうにもならないのを不幸だと捉え、その不幸を幸福に変えるための祈りの言葉はʃ-c-という



## し-Z, しZ

[Ve(4ob>]

し-Zは限界のある。しZは限界のない。抽具に使う。人の場合、何について限界なのか文脈や(ooに頼る

永遠とかいつか終わりの来るという意味では(eo>, (ee>を使うのでその用法はし-Zにはない

川はいつか終わりが来て海に行くのでe)e し-Zではなくe)e (ee>という

し-Zは制限があることも意味する。oZ し-Zは制限のある規則

## しo, しe?

[Ve(4ob>]

しoは相互の、互いに。双方向の。何かと何かが相互に関係しているということを表わす cΛしoは両目ではなく、互いの目。誰かと誰かの目。両目はcΛし co

e-oしe しoは互いに殴る

ふつうしoは誰かと別の誰かに使う。ただ、自分ひとりに使う場合もある。右手と左手を互いに合わせるといような場合は右手と左手が互いになっているので人としては自分ひとりしかいない

また、双方向の意味もあるのでoΛ しoは一方通行でない道になる。勿論、状況次第では、(の私道と?の私道を互いに繋げるといように、互いと訳す場合もある

一方、しe?は一方通行の、非相互の、一方的な。しoo? しe?は一方的な会話

## しo!, しel

[Ve(4ob>]

しo!は必然。そうなることが必ず起こるさま。必至の。抽象を取る。文脈から分かれば人も取れる

しelは偶然。V-JC しelなど

## しoΛ?, しeΛ?

[Ve(4ob>]

ㄅㄆㄇは間に合った、間に合う、セーフ、危機一髪な、ギリギリな、危なかった。ㄎ-ㄏ ㄅㄆㄇは間に合った女。ㄌㄍ ㄅㄆㄇは間に合った乗れた電車。どの程度時間的余裕があったかは不明

危なかったといっても危険という意味ではない。目の前をボールが横に通り過ぎてもう少しで当たりそうだった場合、ㄎ-ㄎである。That was close の感覚ではないので、-ㄆㄇではない

ㄅㄆㄇは間に合わない、乗り過ごした、取り逃がした、しくじった

### ㄅㄆㄇ, ㄅㄆㄇ

[ㄅㄆㄇㄌㄍ]

ㄅㄆㄇはすっぴんの、化粧を施さない。人を取るが、擬人的に物も取れる

ㄅㄆㄇは化粧した

### ㄅㄆㄇ, ㄅㄆㄇ, ㄅㄆㄇ, ㄅㄆㄇ

[ㄅㄆㄇㄌㄍ]

必要性を表わす。順に100%かその近く、高い、低い、0%かその近く。日本語にすると必要な、あるべき、あるといい、いらぬ

抽具を取れる。ㄎ-ㄏ ㄅㄆㄇは必要な女、ㄎ-ㄎ ㄅㄆㄇはいらぬ紙。但しこれは直ちに捨てて良いとは限らないことが多い。必要性はないが、捨てるのは可哀想だとかもったいないなどという理由でタンスの奥にしまうことがある

尚、昔の記念品は記念品ということで必要性があるので現在使わなくてもㄅㄆㄇである。いらぬ紙ももしそれが記念ならㄅㄆㄇでありうる

### ㄅㄆㄇ, ㄅㄆㄇ

[ㄅㄆㄇㄌㄍ]

ㄅㄆㄇは贅沢。衣食住などの物に必要以上に金をかけるさま。非常に悪徳。結果的に豪華かどうかは分からない。嫌に地味なものを高値で買ったなら豪華ではないが贅沢ではある

人や物を取る。ㄎ-ㄏ ㄅㄆㄇは贅沢な女。金遣いの荒い放蕩する女。ㄎ-ㄆ ㄅㄆㄇは贅沢な服。ㄅㄆㄇ-ㄎ ㄅㄆㄇは贅沢な食べ物

また、分をわきまえない程度を望むさまも表わす。駅までタクシーで行くのは贅沢だと

いう場合も Үбӧ である。あの男にあの女は贅沢だというのは日本語ではあまり聞かないが、意味は分かる。だがアルカではこの用法はむしろ日常的である

尚、趣味やアンティークに凝る人間には理解者が多い。そういう場合はあまり贅沢とは見られない。ただ、あれもこれもと節操ない者や、良く分からずただ値の張るものを集めれば即座に悪徳。むしろアルバザードはいかに安く合理的に自分で改良を加えて良いものを作ったり集めたりするかに価値を置く。そういった努力をしないでただ集めるのは贅沢 Үеӧ は質素な、儉約した。ケチではない。美德

### Үб-, Үбс

[Ve(Үбс) >]

Үб- は便利な。使えるとも訳すが、available の使えるではない。つまり利用可能ではない。役に立つという意味である。抽具を取れる。当然人も取れる

Үбс は不便な。役に立たない

### Үба

[Ve(Үбс) >]

重複した、被った、重なった、ダブった。抽具を取る。 -лс Үба はダブったカード。同じものが二枚出てきた場合。 Јеl Үба は同じ日に用事がかぶったような日の場合

<-л Үба は何かでかぶった女。たとえば同じ男に入れ込んだ女や、逆に二人の男が好きになってかぶってしまった女など

### Zбӧ, Zeӧ

[Ve(Үбс) >]

Zбӧ は気前良い。人のために惜しみなく与えるさま。喜捨するさま。美德。自分が苦しくなるほど与えるのは良くないを乗り越えてアルバザードでは完全に悪徳

Zeӧ はケチな、出し惜しむような。悪徳。良い意味では Үеӧ という

人と付属物を取る。 <-л Zeӧ, с-лс Zeӧ など

### Zбӧ, Zeӧ

[Ve(Үбс) >]

Zoŋは応用の。基本をベースにそれ以上の発展したものを作るさま

Zeŋは基本

抽象を取る。-k Zoŋなど。物も取る。Joŋ Zoŋは応用した編み物。人はあまり取らない。

文脈で分かれば取れる

## Zoŋ, Zeŋ

[Veŋʧoŋ>]

Zoŋは頂上の。てっぺんにある。屋上という意味もある。物理的な意味しかない。つまり最上位という意味はない

Zeŋは底の。底にあるという意味。また建物でいうところの一階や地下階などの、一番下の階を指す。ここが日本語の底と違う。eZ Zeŋで最も下の階にある部屋。最も下の階はeol Zeŋ